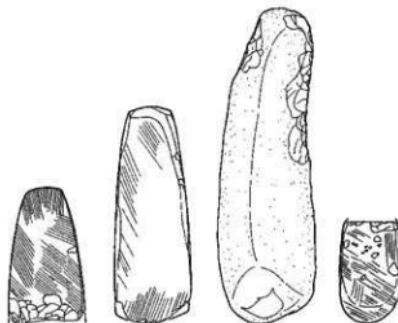


市内遺跡調査概報XII

— 平成13年度、滝遺跡の調査他 —



2002年3月

高岡市教育委員会

※表紙・大扉カット＝滝遺跡出土縄文時代の磨製石斧等

序

高岡市域における遺跡は、古くは丘陵や台地縁辺部において採集された旧石器時代の石器があり、その後近世の都市遺跡に至るまで、縄文時代・弥生時代をはじめ古代～中世の遺跡が所在しています。

これらの遺跡は、丘陵・台地部から平野部まで市内各所に分布し、高岡市固有の風土や郷土文化を形作る一部となっています。本市教育委員会におきましては、長年にわたりこの遺跡保護行政を実施してきました。

今回ここに報告しますのは、個人住宅建築等の開発行為に伴い平成13年度に実施した8箇所の遺跡－出来田南遺跡、石塚江之戸遺跡、滝遺跡、石塚遺跡、越中国府関連遺跡、東本津遺跡、柴野遺跡、岩坪岡出島遺跡の発掘調査の内容です。

出来田南遺跡は高岡市街地の南西部に位置しています。律令期を中心とする遺跡で、拠立柱建築址等の遺構が検出され、墨書き器等が出土しています。官衛的な様相も示している遺跡です。今回の調査は平成13年度の調査に統くものです。市域より他に幾つか官衛的集落遺跡が確認されており、これらとの比較検討が必要と思われます。

滝遺跡は高岡市城南西側の中田地区の平野部に所在しています。今回の調査は当遺跡における最初の発掘となりました。縄文時代中期の土器・石器が出土した他、律令期の遺構の検出・遺物の出土もみられました。縄文時代については、付近の丘陵上に該期の著名な遺跡が所在しており、これらとの関連に興味を持たれます。

その他の遺跡は、過去に発掘調査の実績があり、各遺跡の内容把握がさらに進展いたしました。

最後になりましたが、今回の調査実施に御協力頂きました、関係各位、地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成14年3月

高岡市教育委員会
教育長 細呂木 六良

例　書

1. 本書は、富山県高岡市において平成13年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
2. 当調査は、開発工事に伴い実施した、本調査・試掘調査である。
3. 当調査は、平成13年度国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会文化財課が実施した。
4. 本調査は、1遺跡（出来田南遺跡）1箇所（1つの調査地区）である。
5. 試掘調査は、7遺跡8箇所である。
6. 調査関係者は以下の通りである。
　　文化財課長：大石　茂
　　〔埋蔵文化財担当〕
　　天谷隆夫（主幹）
　　山口辰一（主査）
　　根津明義（文化財保護主事）
　　荒井　隆（文化財保護主事）
　　太田浩司（文化財保護主事）
7. 本書における遺構記号は次の通りである。
　　SD—溝、SK—土坑、SX—その他の遺構
8. 本書における遺物番号は次の通りである。
　　2001～2012番：石塙江之戸遺跡、土器類
　　3101～3159番：溝遺跡、縄文土器
　　3201番：溝遺跡、土偶
　　3301～3318番：溝遺跡、縄文時代・石器
　　3401～3413番：溝遺跡、奈良平安時代・土師器
　　3501～3518番：溝遺跡、奈良平安時代・須恵器
9. 現地調査及び報告書作成において、以下の各氏より、御教示・御援助を得た。
　　小島俊彰、西井龍儀、邑木順光、鈴木景二（順不同・敬称略）
10. 本書の執筆担当は次の通りである。
 1. 出来田南遺跡－太田
 2. 石塙江之戸遺跡－荒井
 3. 溝遺跡－荒井
 4. その他の遺跡
　　荒井：岩坪岡田島遺跡以外
　　太田：岩坪岡田島遺跡

目 次

序

例言

日次

1. 出来田南遺跡黒川仏壇店擁壁工事地区	1
2. 石塚江之戸遺跡	13
I 序 説	15
II セイコーエニオン地区	18
III 石浦地区	19
IV 結 語	20
3. 滝遺跡	21
I 序 説	23
II 遺 務	27
III 遺 物	29
IV 結 語	30
4. その他の遺跡	31
I 石塚遺跡堀建設工事地区	33
II 越中国府関連遺跡大村地区	34
III 東木津遺跡泉脇神經外科地区	35
IV 岩坪岡田島遺跡池田地区	36
V 柴野遺跡山田地区	37

図面目次

- 図面01 遺物実測図 滝遺跡 繩文土器・中期前葉後半 (1/3)
図面02 遺物実測図 滝遺跡 繩文土器・中期前葉後半 (1/3)
図面03 遺物実測図 滝遺跡 繩文土器・中期前葉後半 (1/3)
図面04 遺物実測図 滝遺跡 繩文土器・晚期初頭 (1/3)、土偶 (1/2)
図面05 遺物実測図 滝遺跡 繩文時代・石器 (1/3)
図面06 遺物実測図 滝遺跡 繩文時代・石器 (1/3)
図面07 遺物実測図 滝遺跡 奈良平安時代・土師器 (1/3)
図面08 遺物実測図 滝遺跡 奈良平安時代・須恵器 (1/3)

図版目次

- 図版01 造構写真 出来山南遺跡 1. 黒川仏壇店擁壁工事地区重機掘削風景 (西より)
2. 黒川仏壇店擁壁工事地区調査坑全景 (南北より)
3. 黒川仏壇店擁壁工事地区墨書き土器出土状態 (東より)
図版02 造構写真 石塚江之戸遺跡 1. セイコーエニオン地区全景 (南西)
2. セイコーエニオン地区全景 (北西)
3. セイコーエニオン地区調査風景 (南南西)
図版03 造構写真 石塚江之戸遺跡 1. 石浦地区遠景 (南)
2. 石浦地区遠景 (南南東)
図版04 造構写真 石塚江之戸遺跡 1. 石浦地区全景 (南南西)
2. 石浦地区全景 (西)
図版05 造構写真 滝遺跡 1. 遠景 (南)
2. 遠景 (南西)
図版06 造構写真 滝遺跡 1. 全景 (南東)
2. 全景 (北東)
図版07 造構写真 滝遺跡 1. 全景 (北西)
2. 全景 (南)
図版08 造構写真 滝遺跡 1. 炉址 S X01 (南西)
2. 炉址 S X01 (北西)
図版09 造構写真 滝遺跡 1. 炉址 S X02 (南西)
2. 炉址 S X03 (北西)
図版10 造構写真 滝遺跡 1. 土坑 S K01 (南)
2. 土坑 S K03 (北東)
図版11 造構写真 滝遺跡 1. 遺物出土状態、土偶 (南西)
2. 遺物出土状態、磨製石斧 (北西)

3. 調査風景（東）

- 図版12 遺構写真 岩坪岡田島遺跡 1. 池田地区全景（南東より）
 2. 池田地区重機掘削風景（東より）
 3. 池田地区試掘坑土層断面近景（北より）
- 図版13 遺物写真 出来田南遺跡 奈良平安時代・土師器・須恵器
- 図版14 遺物写真 滝遺跡 1. 縄文土器・中期前葉後半
 2. 縄文土器・中期前葉後半
- 図版15 遺物写真 滝遺跡 1. 縄文土器・中期前葉後半
 2. 縄文土器・晚期初頭
 3. 土偶
- 図版16 遺物写真 滝遺跡 1. 縄文時代・石器
 2. 縄文時代・石器
- 図版17 遺物写真 滝遺跡 1. 縄文時代・石器
 2. 縄文時代・石器
- 図版18 遺物写真 滝遺跡 1. 奈良平安時代・鉄滓
 2. 奈良平安時代・鉄滓

挿 図 目 次

第1図 出来田南遺跡黒川仏様店構整工事地区遺跡周辺図 (1/5,000)	1
第2図 出来田南遺跡出土磨き土器	2
第3図 出来田南遺跡出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	3
第4図 出来田南遺跡関係年表	4
第5図 石塚江之戸遺跡位置図 [1] (1/15万)	13
第6図 石塚江之戸遺跡位置図 [2] (1/5万)	14
第7図 石塚江之戸遺跡調査地区位置図 (1/5,000)	15
第8図 石塚江之戸遺跡各調査地区遺構概略図 (1/1,000)	17
第9図 石塚江之戸遺跡セイコーエン地区遺物実測図 (1/3)	18
第10図 石塚江之戸遺跡石油地区遺構図 (1/200)	19
第11図 滝遺跡位置図 [1] (1/15万)	21
第12図 滝遺跡位置図 [2] (1/5万)	22
第13図 滝遺跡石油地区位置図 (1/5,000)	23
第14図 滝遺跡石油地区全体図 (1/400)	25
第15図 滝遺跡石油地区遺構図 (1/200)	26
第16図 滝遺跡石油地区炉址実測図 (1/80)	27
第17図 その他の調査地区関連遺跡位置図 (1/7万5千)	32
第18図 石塚遺跡堀建設工業地区位置図 (1/5,000)	33
第19図 越中国府関連遺跡大村地区位置図 (1/5,000)	34

第20図 東木津遺跡泉脳神経外科地区位置図 (1/5,000)	35
第21図 岩坪岡田鳥遺跡池田地区周辺図 (1/5,000)	36
第22図 柴野遺跡山田地区位置図 (1/5,000)	37

調査地区一覧表

No	遺跡名	調査地区名	地番・住所	対象面積	発掘面積	調査期間
1	出来田南遺跡	黒川仏壇店施設工事地区	高岡市出来田141-1	53.5m ²	53.5m ²	010410~010427
2	石塚江之戸遺跡	セイコーユニオン地区	高岡市上北島212-1他	661m ²	60m ²	010416~010427
3	石塚江之戸遺跡	石浦地区	高岡市上北島247-1他	890m ²	373m ²	011203~011226
4	澁遺跡	澁石地区	高岡市澁106-3	1,000m ²	371m ²	011015~011114
5	石塚遺跡	堀建設工業地区	高岡市石塚150-3	499m ²	50m ²	010416~010427
6	越中国府間遺跡	大村地区	高岡市矢田上町181	138m ²	20m ²	011002~011002
7	東木津遺跡	泉脳神経外科地区	高岡市佐野870-1	4m ²	4m ²	011001~011005
8	岩坪岡田鳥遺跡	池田地区	高岡市国吉1904	603m ²	16m ²	011121~011121
9	柴野遺跡	山田地区	高岡市柴野50-2	499m ²	50m ²	011210~011210

調査参加者名簿

発掘 上田工、岡田一広、橋谷潤、河原康弘、小林央、佐野實、澤山和明
中山賢富、廣沢隆太郎、山崎一男、山城一夫
整理 錦仲勝子、小島あゆみ、新谷晴紀子、澁律子、道谷美奈子、中三希子
村田智恵子、村田理恵、室峰真弓、山崎美和

1. 出来田南遺跡 黒川仏壇店擁壁工事地区

遺跡概観

「出来田南遺跡」は、市東部に位置しており現況で標高10m程度をはかる段丘崖の端部上に位置している。当包蔵地は、平成2年度に高岡市が実施した分布調査事業の結果をうけて新規台帳変更したものである。当該地は、平成12年度に同一の原因者が造成工事を届けたため試掘調査を実施している。この際には、遺構として掘立柱建物などが確認され、遺物として墨書き土器（酒麻呂）、鉄滓などが出土している。また、調査地区の東北方には、平成11年度の試掘調査において掘立柱建物などが確認された大和ハウス地区がみられる。

基本層序

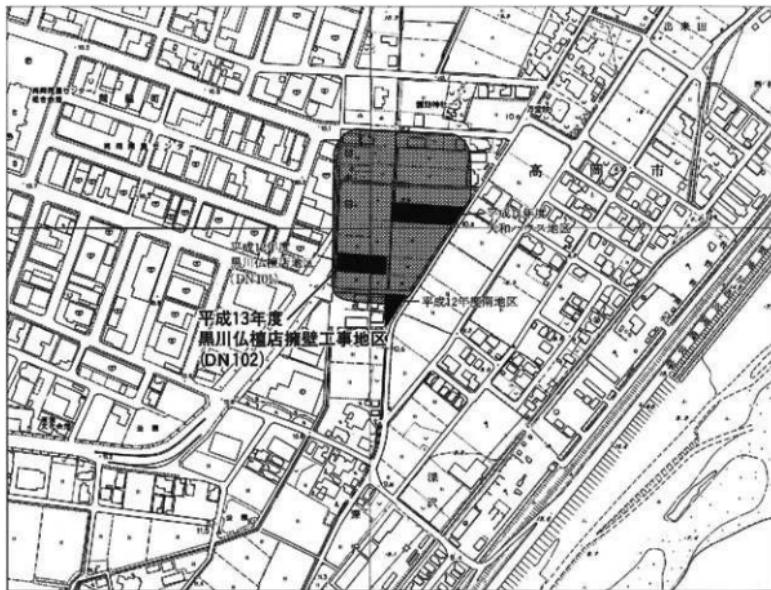
耕作土、(遺構面) 黄褐色砂質土

調査概要

所 在 地：高岡市出来田141-1、対象面積：53.5m²、調査面積：53.5m²

調査期間：平成13年4月10日～同年4月27日、調査原因：簡易舗装駐車場の造成（擁壁部分）

原 因 者：(有)丸栄黒川仏壇店 代表取締役 黒川 義則



第1図 出来田南遺跡黒川仏壇店擁壁工事地区遺跡周辺図 (1/5,000)

調査結果

遺構は、柱穴（方形）や溝などが検出された。しかし、調査面積が狭いため建物などを復原できるだけの結果は得られていない。また、遺物は少量かつ遺構精査作業中に出土したものであり遺構に共伴するものはごく限られたものである。須恵器は、杯蓋・杯Bなどの破片が出土した。墨書き土器は、杯Aの底部にみられる「上川邊」と解される地名が表記されている。だが、残念ながら開田岡などにこの名をみるとことはできない。次に、焼土塊片は窯壁など的一部とも考えられるが今回の調査においても窯跡などは確認できなかった。また、昨年度と同様に木炭が検出されたことも遺跡の性格づけをする上で着目すべき点である。今回は、木炭をサンプリングし放射性炭素年代測定に供した。その結果、較正年代は奈良時代～平安時代に位置づけられるものであることを示唆した。よって、当地において金属製品を生産していた工房などが存在していた可能性が更に高まったものと考えられる。今後は、炉跡や鋳型などの確認がなされることでより詳細な検討がなされていくことが期待される。

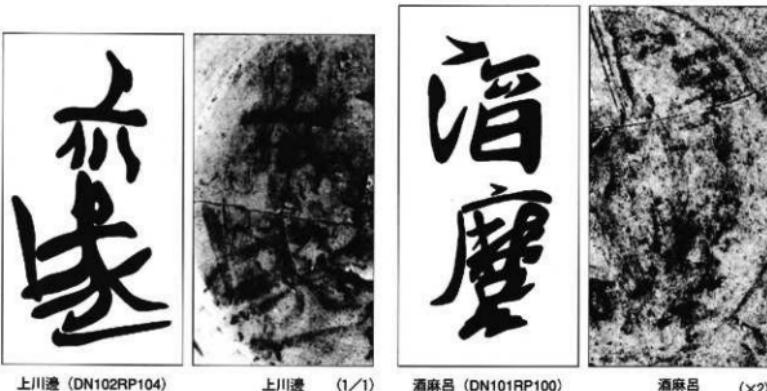
参考文献

高岡市教育委員会2000『市内遺跡調査概報X－平成11年度、出来田南遺跡の調査他－』

高岡市教育委員会2001『市内遺跡調査概報XI－平成12年度、東木津遺跡等の調査－』

高岡市教育委員会2000『高岡市遺跡地図』

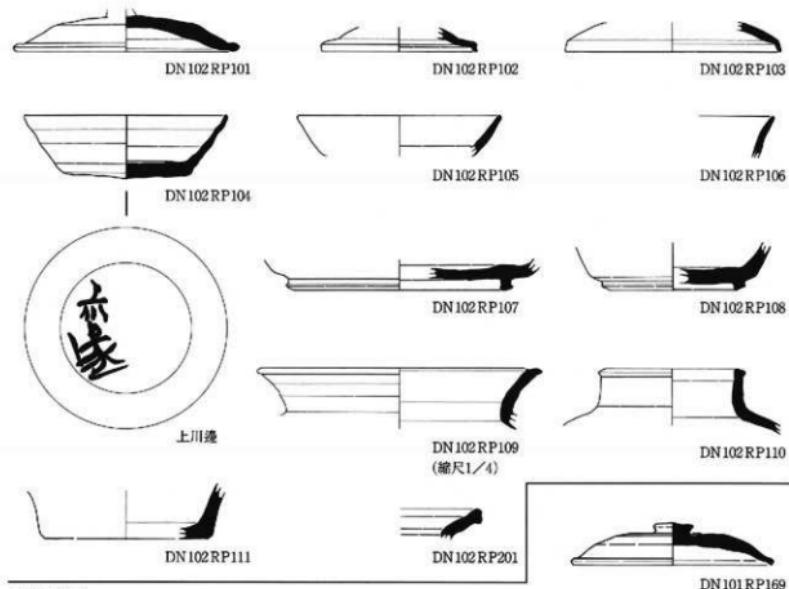
金田章裕1999『古地図からみた古代日本 土地制度と景観』中央公論新社



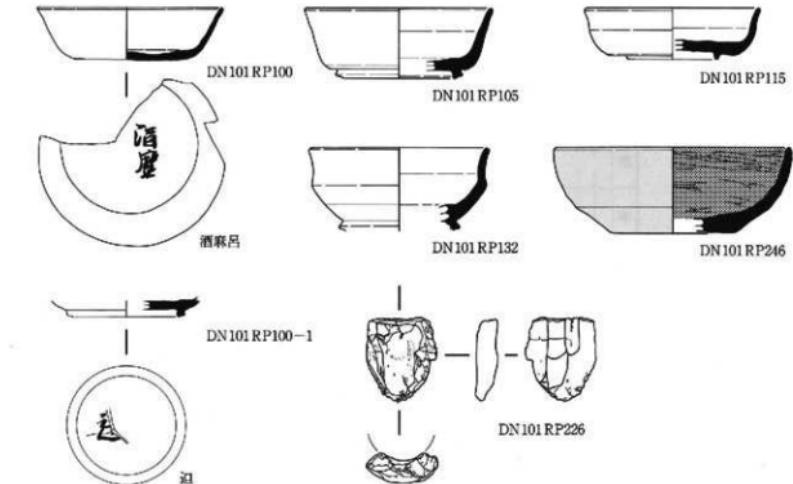
写真は Photo shop 5.0 (Adobe社製) を使用し、画像補正機能等により画像を強調してある。

第2図 出来田南遺跡出土墨書き土器

平成13年度



平成12年度



第3図 出来田南道路出土遺物実測図 (1/3・1/4)

放射性炭素年代測定について

本調査では、放射性炭素年代測定を実施した。分析試料は、遺構精査中に確認された2点である。試料の性格は、当調査区では現耕作土面下に遺構面が形成されていることから、遺構に由来するものであるかどうかは極めて判断が難しい状況であり、かつ木炭であり遺物に付着したものではない。しかし、積極的に年代測定法を導入することで遺跡の性格を推定するうえでの判断材料のひとつとなれば良いと考えた。ただ、鉄滓や羽口、焼土塊が確認されていたことは金属製品の生産拠点などが存在したことを示唆している。

サンプリングは、調査担当者が直接実施した。方法は、ステンレス製ピンセットを用いて土壤から炭化物を抽出し、アルミホイル上で余分な土壤および現生植物の根などコンタミネーションとなりうる要因を極力除去した。その後、アルミホイルに包みシリカゲルとともにフィルムケースに入れビニル袋に収納した。

サンプルの保管方法は、冷蔵庫内に貯蔵し適宜シリカゲルを交換しカビなどの発生を防いだ。また、分析業務を委託するまで約7箇月程度このような状況下で保管した。

分析業務は、株式会社加速器研究所に委託した。年代測定は、加速器質量分析法（AMS法）によった。また、作業手順は、前処理、酸化、精製、カソード詰め、AMS測定、データ処理、報告書作成の順で実施された。

分析結果は、半減期を5568年として計算された放射性炭素年代が 1330 ± 40 BP (DN101-1) および 1290 ± 40 BP (DN101-2) であった。

年代校正は、オックスフォード大学で開発されたOxCal ver. 3.5によって実施された。校正曲線は、ニューヨーク大学のINTCAL98が用いられた。与えられた校正年代は、650AD-720AD・740AD-770AD・640AD-780AD (DN101-1)、680AD-730AD・735AD-775AD・650AD-830AD・840AD-860AD (DN101-2) という結果であった。作業工程ならびに報告書は後掲のとおり。

西暦	6 6 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 8 8 8
	4 5 8 1 2 3 3 4 4 4 4 5 5 6 7 7 8 9 3 4 6
暦	0 0 0 0 5 0 1 3 6 1 9 7 0 5 0 4 0 0 0
事項	
平城京に遷都される	
国分寺・國分尼寺建立の詔	大家射水郡鳴戸開墾田園なる 中田を去るに任せらる
	伴家持越中守に任せらる

第4図 出來田南遺跡関係年表

高岡市教育委員会文化財課 御中

放射性炭素年代測定結果 報告書

13年12月27日

株式会社 加速器分析研究所

年代測定結果報告書

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用しています。
- 2) BP 年代値は、1950 年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、標準偏差 (1σ) に相当する年代で、次のように算出しています。
複数回（通常は 4 回）の測定値について χ^2 検定を行い、測定値のばらつきが小さい場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、ばらつきが大きい場合には不偏分散の平方根（標準偏差）と統計誤差から求めた値を比較して大きい方を誤差としています。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS 測定の場合には同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもあります。
ただし、都合により $\delta^{13}\text{C}$ を測定しなかった場合には、 $\delta^{13}\text{C} = -25.0 \pm 2\text{‰}$ (パーミル) と仮定して計算しています。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰; パーミル) で表したものです。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{As} - {}^{14}\text{Ar}) / {}^{14}\text{Ar}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{As} - {}^{13}\text{APDB}) / {}^{13}\text{APDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{As}$: 試料炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度 (${}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C}$)

${}^{14}\text{Ar}$: 標準現代炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ${}^{13}\text{C}$ 濃度 (${}^{13}\text{As} = {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$) を測定し、PDB (白亜紀のペレムナイト (矢石) 類の化石) の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、IAA では加速器により測定中に ${}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ を測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に (加速器) と注記します。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるとしたときの ${}^{14}\text{C}$ 濃度 (${}^{14}\text{As}$) に換算した上で計算した値です。(1) 式の ${}^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のよう換算します。

$${}^{14}\text{As} = {}^{14}\text{A} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad (= \Delta^{14}\text{C})$$

また、 ${}^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになります。

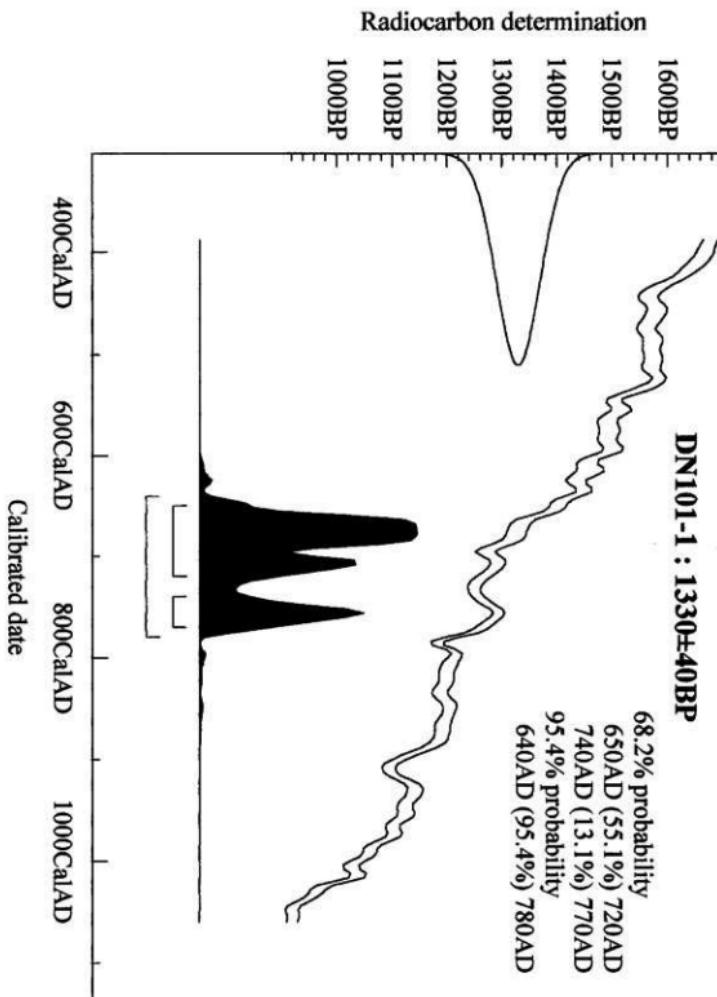
$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100$$

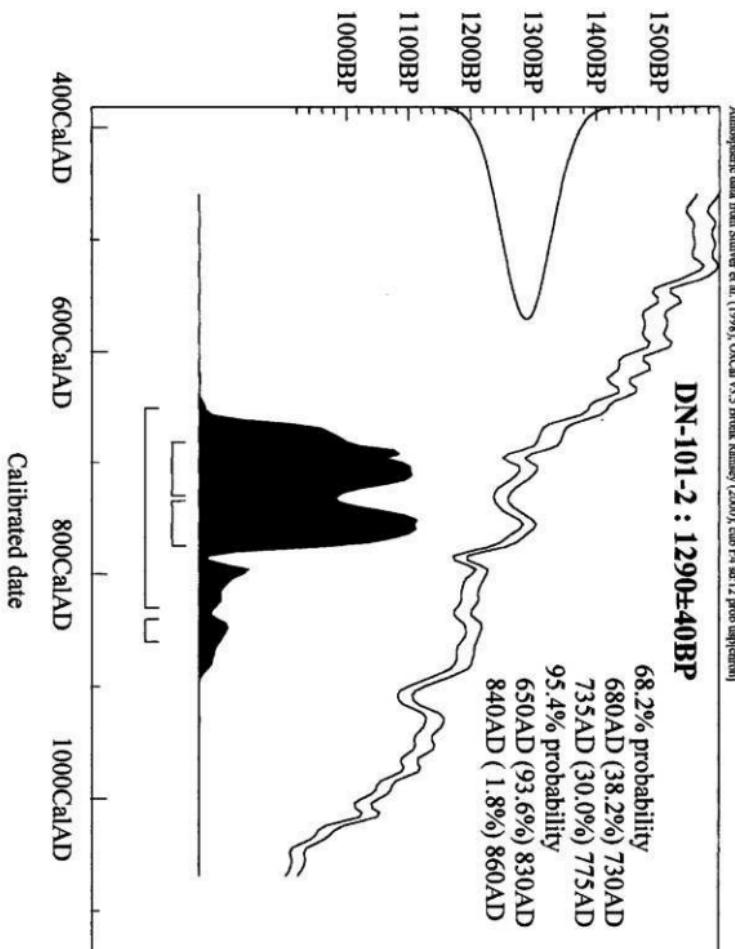
国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいは pMC により、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age ; yrBP) が次のように計算されます。

$$\begin{aligned} T &= -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1] \\ &= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100) \end{aligned}$$

Atmospheric data from Stuiver et al. (1998); OxCal v3.5 Brink Ramsey (2000); cal r.4 std.12 prob. 95.4%



Radiocarbon determination



IAAA Code No.	試 料	BP 年代および度素の同位体比
IAAA-10167	試料採取場所 : 富山県高岡市出来田140-1 試料形態 : 木炭 試料名(番号) : DN101-1	Libby Age : 1,330 ± 40 yrBP $\delta^{13}\text{C} = -24.4 \pm 0.8$ (加速器) $\Delta^{14}\text{C} = -152.4 \pm 0.7$ (‰) $\text{pMC} = 84.76 \pm 0.38$ (%)
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C} = -151.3 \pm 0.6$ (‰) $\text{pMC} = 84.87 \pm 0.35$ (%) Age : 1,320 ± 30 (yrBP)
IAAA-10168	試料採取場所 : 富山県高岡市出来田140-1 試料形態 : 木炭 試料名(番号) : DN101-2	Libby Age : 1,290 ± 40 yrBP $\delta^{13}\text{C} = -30.7 \pm 0.8$ (加速器) $\Delta^{14}\text{C} = -147.8 \pm 0.7$ (‰) $\text{pMC} = 85.22 \pm 0.40$ (%)
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C} = -157.8 \pm 0.7$ (‰) $\text{pMC} = 84.22 \pm 0.37$ (%) Age : 1,380 ± 40 (yrBP)

作業工程

11月21日～	試料 Pick Up 前処理 酸化	写真1 写真2、3 写真4
11月29日～	精製	写真5
12月3日～	カソード詰め	写真6
12月7日～	AMS 測定開始	写真7
12月12日～14日	データ処理	
12月17日～19日	報告書作成	

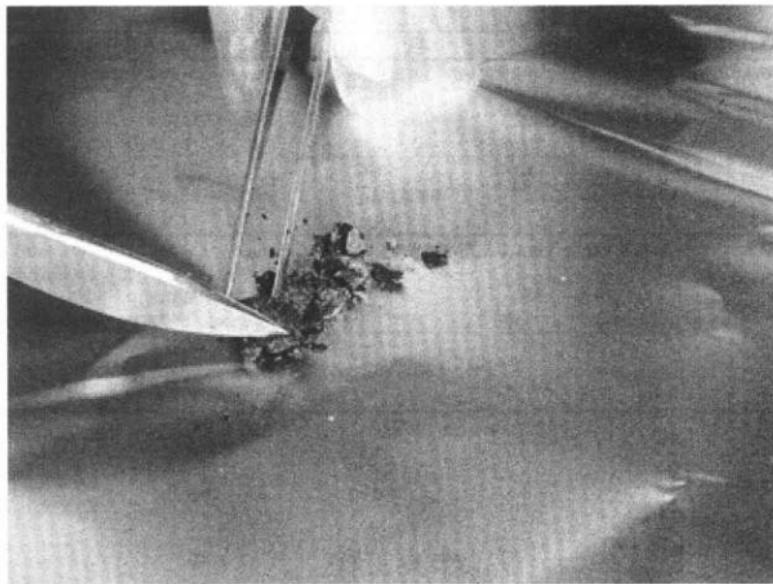


写真1 試料 Pick Up

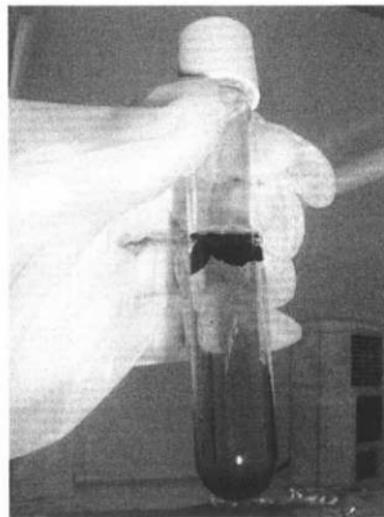


写真2 前処理1

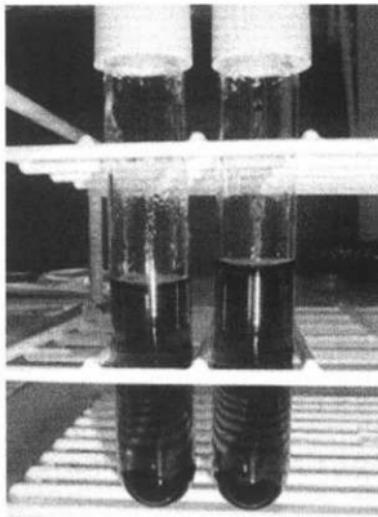


写真3 前処理2

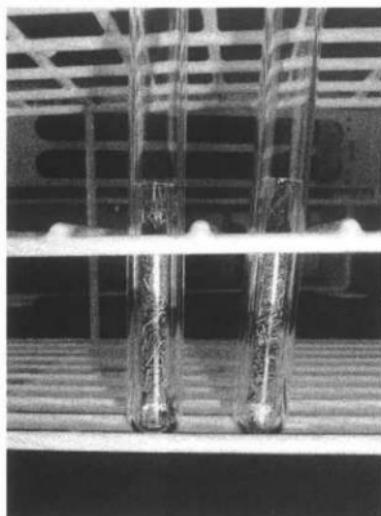


写真4 酸化

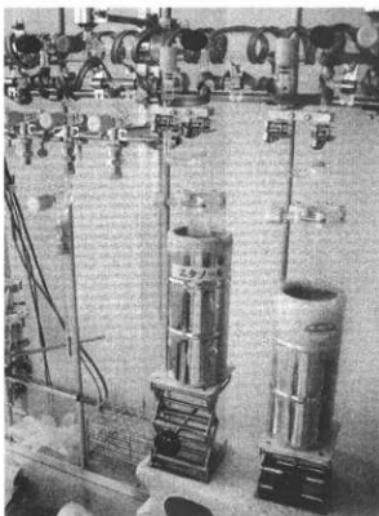


写真5 精製

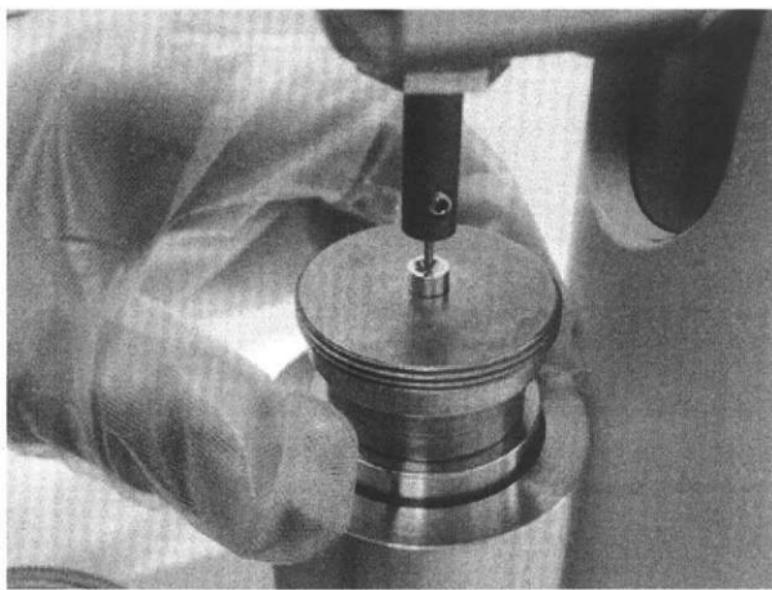


写真6 カソード詰め

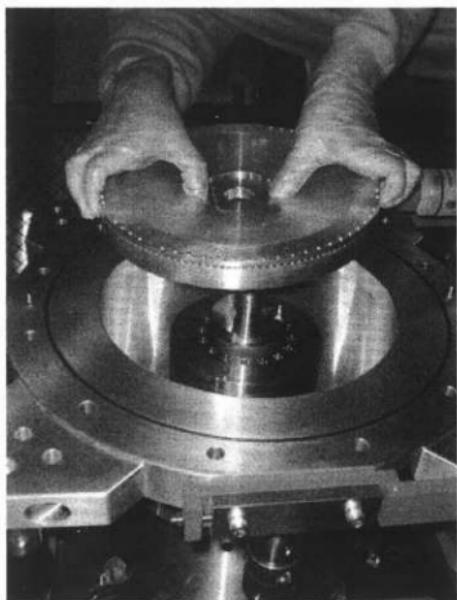


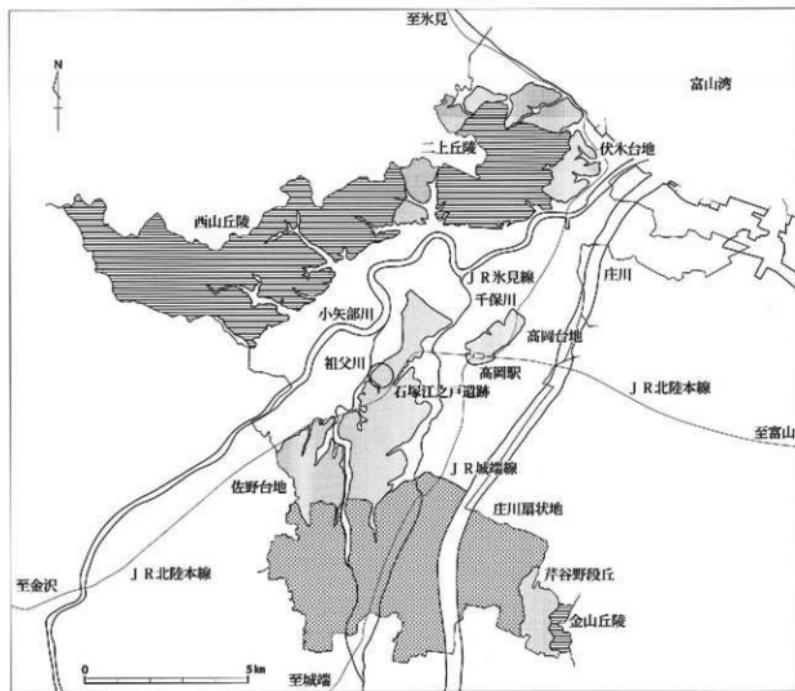
写真7 AMS測定開始



AMS測定

2. 石塚江之戸遺跡

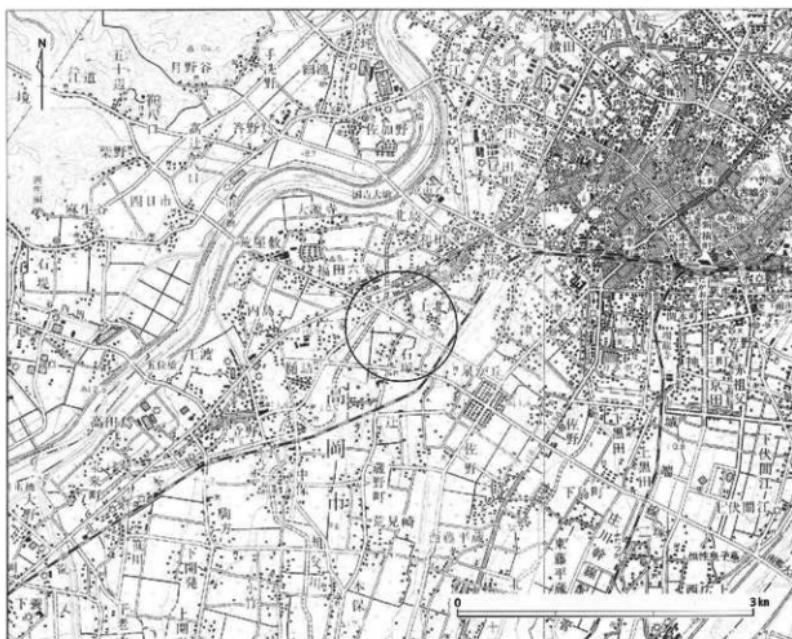
— セイコーエンジニアリング地区・石浦地区の調査 —



第5図 石塚江之戸遺跡位置図(1)(1/15万)

2. 石塚江之戸遺跡、目次

I 序 説	15	III 石浦地区	19
II セイコーユニオン地区	18	IV 結 語	20

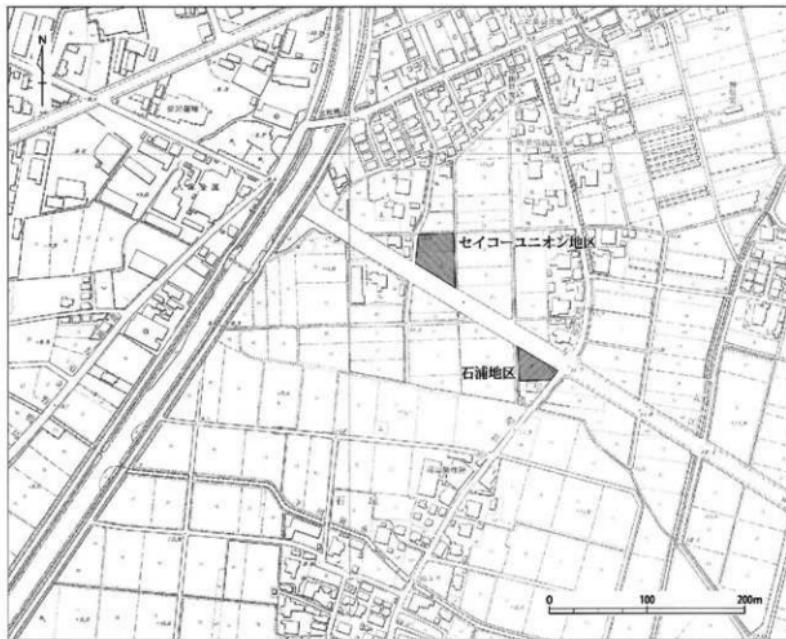


第6図 石塚江之戸遺跡位置図(2)(1/5万)

I 序 説

遺跡概観

当「石塚江之戸遺跡」は、高岡市街地の南西郊、JR高岡駅の南西約3.4kmに位置する。北側を都市計画道路下伏間江福田線が北西から南東方向に走る。中央部を主要地方道高岡環状線が南北に横切る。西側には祖父川が北流し、北西側を近世の北陸街道が和田方面から祖父川を渡って六家方面へ通っていた。現在は国道8号線が遺跡の西側から北側へ走る。庄川の形成した扇状地の末端部で、佐野台地の縁辺部に当たる。区画整理以前は開析谷が点在する比高差のある地形であったと思われる。これらに囲まれた標高10~11mを計る微高地に位置する。当遺跡では大小の調査が実施され、縄文時代後期、古墳時代、中世を中心とすることが確認されている。範囲は、南北150m×東西125mを計る。なお当遺跡の南東側に隣接して石塚遺跡がある。弥生時代中期の中核的な遺跡として著名であり、縄文時代後晩期から中世にかけて営まれた集落遺跡として知られる。



第7図 石塚江之戸遺跡調査地区位置図 (1/5,000)

調査に至る経緯

今回は当遺跡で実施した2地区の調査について一括して記載した。各調査地区ごとに内容を記述した。遺物はセイコーユニオン地区出土のものを図示し、石浦地区は概要を述べるに止めた。

セイコーユニオン地区：平成13年3月に市農業委員会からの照会で、当遺跡における農地転用と宅地造成計画を知った。このため地主の竹川実氏、石浦正雄氏と施主の（株）セイコーユニオンと協議し、承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。

石浦地区：平成13年11月に市農業委員会からの照会で、当遺跡における農地転用と駐車場造成面積を知った。このため施主・地主の石浦栄一郎氏と協議し、承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。

セイコーユニオン地区は上北島集落の南東側に位置する。石浦地区は主要地方道高岡環状線と都市計画道路下伏間江福田線が交差する交差点の南西側の角地に当たる。

各調査地区的概要

セイコーユニオン地区：発掘調査は平成13年4月16日から同年4月27日まで実施した。試掘坑（トレンチ）を3箇所設定した。調査地区南側については平成8年度に試掘調査を実施しており、今回は北側の範囲を中心に試掘坑を設定した。調査対象面積は661m²、調査面積は60m²である。

石浦地区：発掘調査は平成13年12月3日から同年12月26日まで実施した。当初、試掘坑を設定したところ、遺構と思われる土層を検出したため、調査地区南側を中心に拡張を行い遺構の範囲確認に努めた。表土除去はバックフォーで行い、調査地区内に積み上げた。その後、遺構の検出、確認、記録の作成を順次行った。比較的規模の大きい遺構は部分的に掘下げ、規模と内容の確認を行った。その他の遺構は検出面での確認に止めた。調査対象面積は890m²、調査面積は373m²である。

基本層序

セイコーユニオン地区：調査地区中央部には南北方向に凹地（谷地形）がある。厚さ20cmの表土（耕作土）の下に、上層から厚さ20cm前後の赤褐色粘質土層、厚さ20cmの暗灰色粘質土層、厚さ10~20cmの茶褐色粘質土層（以下、中世包含層）、厚さ30cm以上の黒褐色粘質土層の順に堆積している。谷地形中央部分は地表下1.3mまで確認したが、さらに落込む。地山土は淡灰色砂質土、黄褐色砂質土からなる。

石浦地区：基本層序は厚さ20cmの表土（耕作土）の下に、黄褐色砂質土からなる地山土が現れる。遺物包含層はなく調査地区内は地山土まで区画整理の際の削平が及んでいると思われる。

検出遺構

各調査地区的検出遺構は以下の通りである。

セイコーユニオン地区：溝1条（SD01）、凹地1箇所（SX01）

石浦地区：土坑3基（SK01~03）

石浦地区では、この他に溝状遺構5条を検出した。主に珠洲などの中世の土器類が出土した。一部を掘下げて土層を観察した。遺構覆土の状態、煙管の吸口が出土したこと、周囲の調査地区的状況を考慮して近世以降の耕作痕と判断し、今回は特に記載しなかった。また多数のピットを検出した。

出土遺物

各調査地区の出土遺物は以下の通りである。

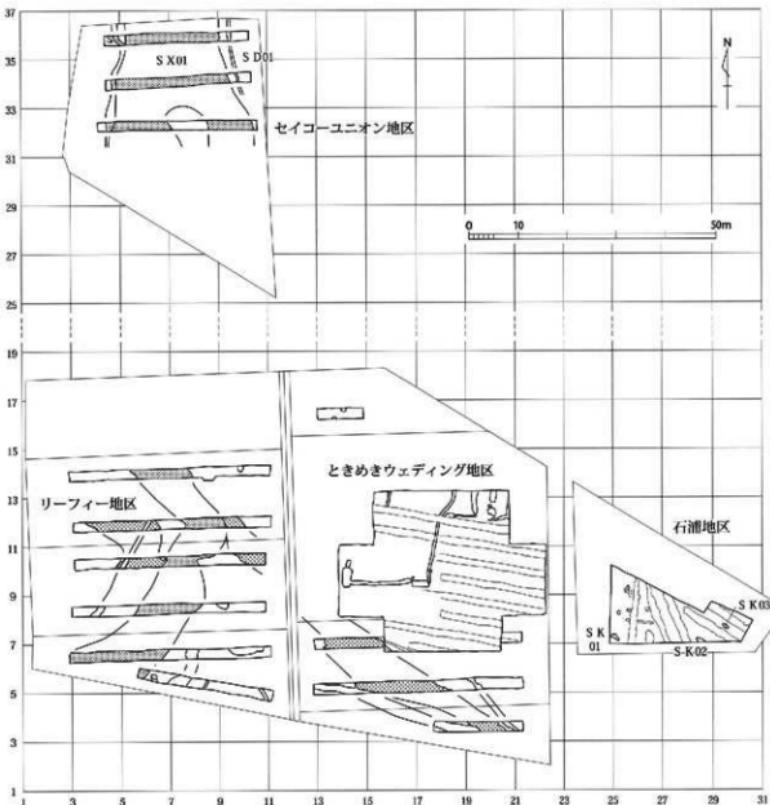
セイコーユニオン地区 土器・陶磁器類：土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸

石浦地区 土器・陶磁器類：土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸

その他：煙管

グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ 、東経 $137^{\circ} 10' 00''$ ）に合わせた。東西をX軸とし、南北をY軸とした。グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表す。X=1、Y=1の地点は、原点より西へ16.440km、北へ81.240kmへ向かった位置である。この地点を基準とし調査地区のグリッドを設定した。一辺10m四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。



第8図 石塚江之戸道路各調査地区遺構概略図（1/1,000）

リーフィー地区＝平成11年度調査、ときめきウェディング地区＝平成12・13年度調査
セイコーウニオン地区＝平成13年度調査、石油地区＝平成13年度調査

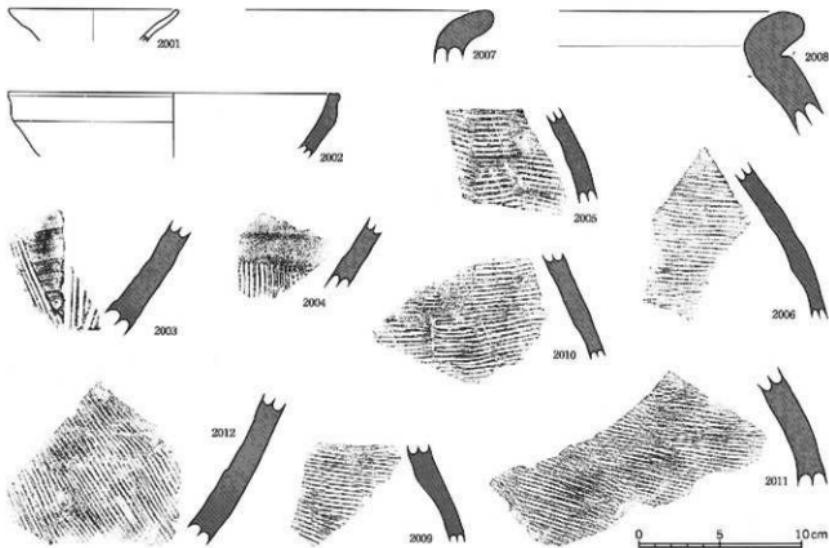
II セイコーエニオン地区

溝 SX01

調査地区北東部、第1～2トレンチの東端部で検出した。北から南東方向に延びる溝である。規模は長さ10.6m以上、幅35～70cmを計る。北側、南東側はさらに延びる。凹地SX01の東側肩部に位置する。覆土は茶褐色砂質土からなる。SX01の覆土と比較して中世段階の遺構と思われる。遺物は出土していない。

凹地 SX01

調査地区中央部、調査地区各トレンチ中央部で検出した。南北方向に広がる凹地である。北側へは緩やかに落込む地形となっている。南側では中央部に高まりがあり、大きく2本に分かれるとと思われる。各試掘坑の土層を観察したところ中央部から西側については土層の乱れやカクランが多く、区画整理の際に大きく改変されていると思われる。覆土下層の茶褐色粘質土層、黒褐色粘質土層を中心に珠洲や中世土師器が出土したことから中世以降に堆積した凹地と思われる。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸がある。第9図に2001～2012として示したものは中世土師器と珠洲で、当遺構出土のものである。



第9図 石塚江之戸道路セイコーエニオン地区遺物実測図（1／3）

2001：中世土師器、2002～2012：珠洲

III 石浦地区

土坑SK01

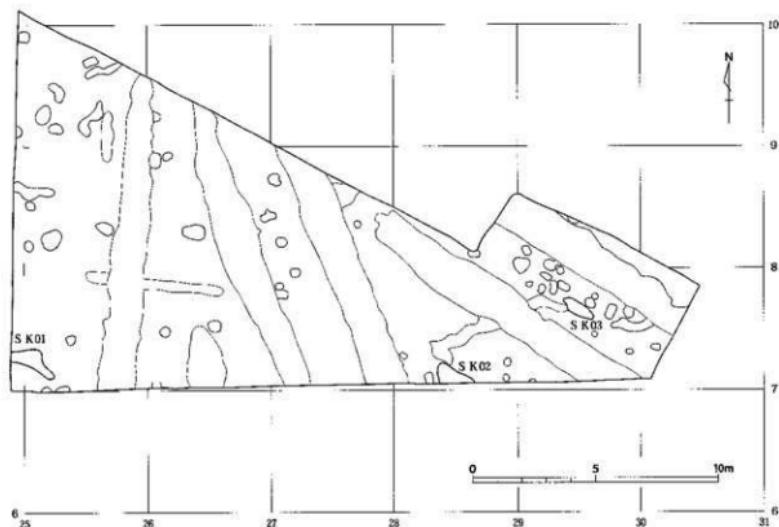
調査地区的南西端部(24・25, 7)区で検出した。平面形は不定形である。規模は長軸2.0m、短軸0.32mを計る。遺物は出土していない。

土坑SK02

調査地区的南西端部(28, 7)区で検出した。平面形は不定形である。規模は長軸1.4m、短軸0.82mを計る。南側は調査地区外に延びる。溝状の遺構となる可能性がある。遺物は出土していない。

土坑SK03

調査地区的南西端部(29, 7)区で検出した。平面形は不定形である。規模は長軸1.36m、短軸0.54mを計る。西側で噴砂址に切られる。遺物は出土していない。



第10図 石塚江戸遺跡石浦地区遺構図(1/200)

IV 結語

石塚江之戸遺跡は、平成2年度に実施した埋蔵文化財分布調査により遺跡の内容と範囲が確認され、総括されている。その後実施した数々の調査により古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が確認されつつある。平成11年度には「リーフィー地区」の試掘調査を実施し、平成12・13年度には「ときめきウエディング地区」の発掘調査（本調査）を実施した。これらに今回報告の2地区を加えた計4地区的遺構等の概略図を第8図で示した。

セイコーユニオン地区

今回の調査では、調査地区中央部に南北に広がる凹地を確認した。東側には平行して走る溝1条を確認した。凹地は調査地区北側に延びており、微高地縁辺まで広がると思われる。出土遺物から中世段階と考えている。南側は平成8年度や平成11年度の試掘調査でも谷地形を確認しており、都市計画道路下伏間江福田線を挟んで広がる可能性もある。全体として遺跡中央部を南北に横断する凹地として考えている。

石浦地区

今回の調査では、土坑3基を確認した。覆土の状態から時期は中世と思われる。出土遺物は中世、近世の陶磁器類を中心である。調査地区内のピットは、覆土が淡灰色粘質土、黒褐色粘質土からなる。周辺の調査の状態と比較すると弥生時代～古墳時代のものと思われる。

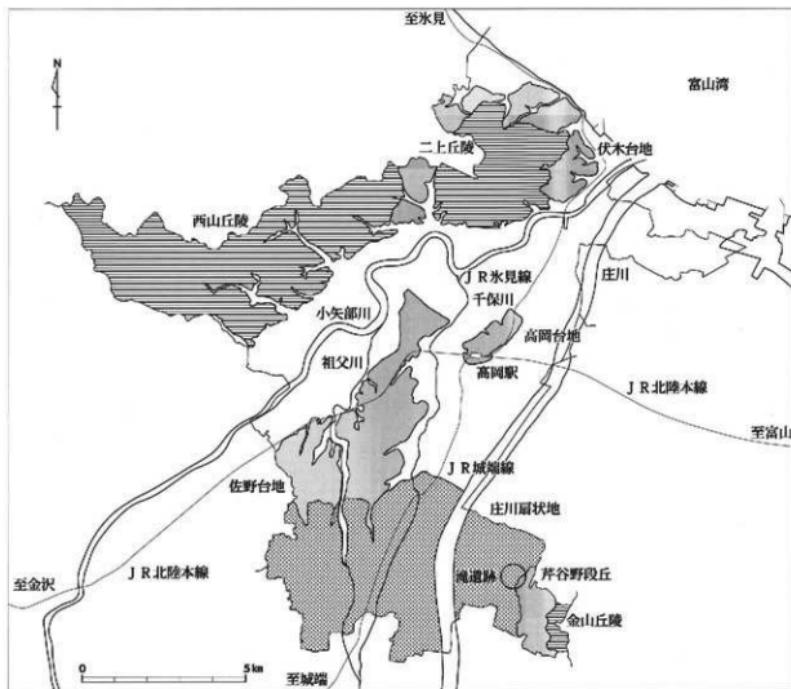
今回の2つの調査地区は遺跡の中央部及び東端部に当たる。遺跡中央部に南北に広がる凹地があり、周辺に中世を中心とした遺構・遺物が分布していると思われる。また平成10年度に石塚遺跡で実施した隣接する箇所の調査では弥生時代の溝や遺物を確認した。今後、当遺跡西側において同時期の遺構・遺物が確認される可能性がある。

参考文献

- 荒井 隆 2000 「市内遺跡調査概報X」 高岡市教育委員会
- 新宅輝久他 2001 「石塚江之戸遺跡調査概報」 高岡市教育委員会
- 吉岡 康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

3. 滝遺跡

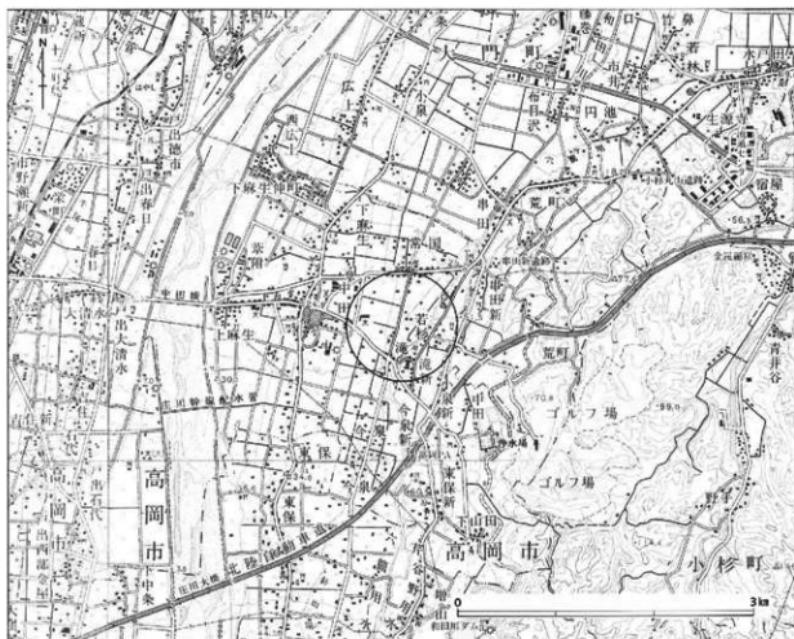
— 油石地区の調査 —



第11図 滝遺跡位置図〔1〕(1/15万)

滝遺跡、目次

I 序 説	23	III 遺 物	29
II 遺 構	27	1. 縄文時代	29
1. 炉址	27	2. 奈良平安時代	29
2. 土坑	28	IV 結 語	30
3. 溝	28		
4. 穴状遺構	28		
5. 凹地	28		



第12図 滝遺跡位置図〔2〕(1/5万)

I 序 説

遺跡概観

当「滝遺跡」は、高岡市域の南東部、中田地区に位置する。JR高岡駅の南東約6.6kmに位置する。東側には芹谷野段丘の崖が迫り、さらに金山丘陵、射水丘陵へと広がる。段丘上には和田川が蛇行しながら北流している。西側には庄川が北流する。標高23~25mを計る庄川右岸の平野部に立地している。旧中田町の東側に当たる。庄川右岸一帯には数々の遺跡が分布している。北東約0.7kmの芹谷野段丘上には国指定史跡串田新造跡があり、縄文時代中期後葉の標識遺跡として知られる。この他古墳時代初頭の住居址や墳丘墓が確認され史跡整備されている。同じ丘陵の北側には延喜式内社の柳田神社がある。

北西側約1kmには常国遺跡があり、平成4・5年にかけて発掘調査が実施された。縄文時代中期・古墳時代後期、奈良平安時代、中世にかけて遺構・遺物が確認された。かつて庄東地区は古墳が確認されておらず、この調査で常国古墳群の発見が契機となってこの地域の古墳文化が見直されることとなった。



第13図 滝遺跡油石地区位置図（1/5,000）

また当地区は古代には砺波郡域に含まれ、從来より東大寺莊園「石栗莊」の比定地の1つとされてきた。常国遺跡の掘立柱建物址群については莊園関連施設とする説が有力である。

当遺跡北側には主要地方道富山戸出小矢部線が東西方向に通る。古代では石栗莊の莊園図に記される東西方向の道路との関連が考えられる。中世以降では徳大寺家領経若野莊が成立し、戦国時代まで存続したことが文献史料から窺い知れる。また木曾義仲の伝承で知られる旧跡「弓の清水」があり、周辺は経若野古戦場として知られる。豊臣秀吉の軍勢が越中攻略の際この道を通過したといわれる。近世では寛文10(1670)年から正徳4(1714)年に行われた加賀藩の工事により庄川の流れが開削され、中田村は加賀藩の蔵が置かれ、米の集散地、宿場町として栄えた。常国村には元和6(1620)年に御旅屋が置かれている。近代になって庄川に中田橋が架けられ、砺波と婦負方面を結ぶ交通路として現在に至るまで機能している。

平成10年度には当市教育委員会により埋蔵文化財分布調査が実施され、当遺跡の存在が確認された。縄文土器、土師器、須恵器、珠洲が採集され、縄文時代中期、奈良時代～中世に至る複合遺跡とされている。遺跡の範囲は岸谷野段丘の崖下沿いに北東～南西方向に広がり、幅170m、長さ600mを計る。

調査に至る経緯

平成13年度9月に市農業委員会からの照会で、当遺跡における農地転用と住宅建設計画を知った。このため、地主の油石正彦氏や施工の住友林業との協議、承諾を得て、同年10月より試掘調査を実施するに至った。調査地区は常国集落の南側、中田小学校の東側、滝集落の北東側に位置する。遺跡の中央部に当たる。

調査経過

発掘調査は平成13年10月15日から同年11月14日まで実施した。当初、試掘坑を3箇所設定した。この際、縄文土器、土師器、須恵器など多数の遺物が出土し、各トレンチより遺構を確認した。遺構・遺物の集中箇所を中心に再び重機により発掘区を拡張し遺構の確認に努めた。表土除去後、遺構の検出、記録の作成を行った。調査地区内には礫を多く含んだ土層からなり、掘下げには通常の倍の労力を必要とした。また土色・土質の変化ともに見分けにくいため、遺物の出土状態を含め遺構検出は慎重に行った。今回は試掘調査のため一部を除いて遺構の掘下げは行っていない。調査対象面積は1,000m²、発掘調査面積は371m²である。

基本層序

平均20cm前後の表土（耕作土）の下に、厚さ30～40cmで黒褐色砂礫からなる土層が堆積している。黒褐色砂質土と直径数cm～10cm前後の礫により構成されている。この下層には茶褐色砂礫や一部に茶褐色粘土と砂礫の混土層からなる層を確認した。この層からは遺物が出土せず、純粹に礫や砂利により構成されていることから基盤層と判断した。

黒褐色砂礫層上面からは焼土や鉄滓を伴う遺構を検出した。土師器、須恵器を伴うことから古代の遺構と考えている。また古代の遺構を切る溝状の遺構を検出した。この遺構は灰色粘質土からなり、鉄分や焼土は含んでいない。珠洲が出土していることから古代の遺構より新しく、時期は中世以降と判断した。

黒褐色砂礫層中からは縄文土器や打製石斧などが多数出土している。いずれも散発的に出土しており明確な一括遺物は認められなかった。礫を中心とした層であること、広く一樣に堆積していることから、縄文時代以降の段階で形成された、地域一帯の堆積作用による層と考えている。

なお、遺構確認面の状態では、黒褐色砂礫層上の遺構は上部を削平されており、わずかに遺構下部が遺存しているものと思われる。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

炉址 3 基 (SX01~03)

土坑 3 基 (SK01~03)

溝 1 条 (SD01)

鉢状遺構 1 箇所 (SX04)

凹地 1 箇所 (SX05)

この他に、ピットを多数検出している。

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

土器・陶磁器類：縄文土器、土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸

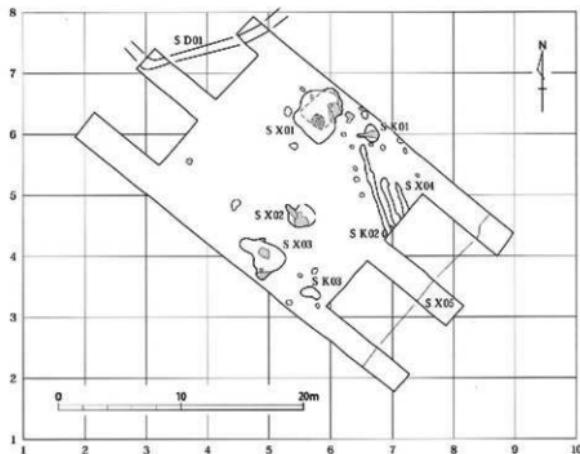
石製品：磨製石斧、打製石斧、磨石、凹石、台石、石錐、剥片、使用痕のある礫

土製品：土偶、輪の羽口

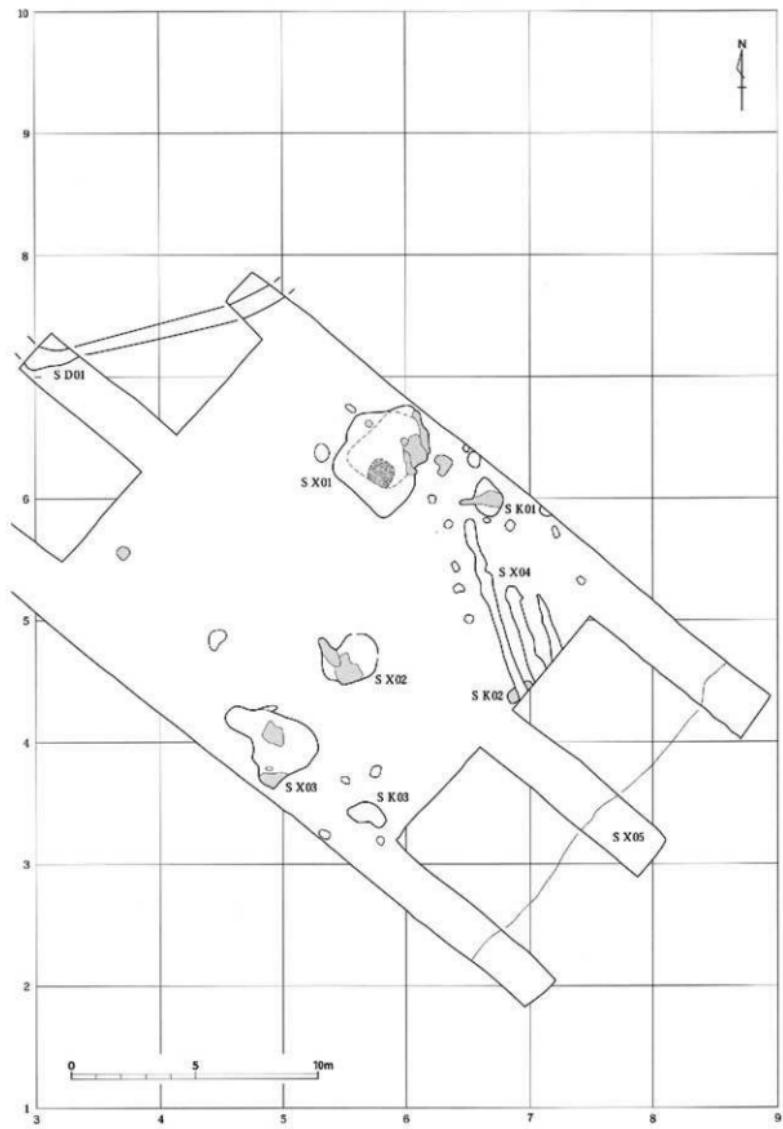
その他：鉄滓

グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第 7 座標系（原点は北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ 、東経 $137^{\circ} 10' 00''$ ）に合わせた。東西を X 軸とし、南北を Y 軸とした。グリッドの左下隅の数値がそのグリッドを表す。X = 1、Y = 1 の地点は、原点より、西へ 11.765km 、北へ 75.380km へ向かった位置である。一辺 5m 四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。



第14図 滲透油石地区
全体図 (1/400)



第15図 淹遺跡油石地区遺構図 (1/200)

II 遺構

1. 炉址

炉址 SX01

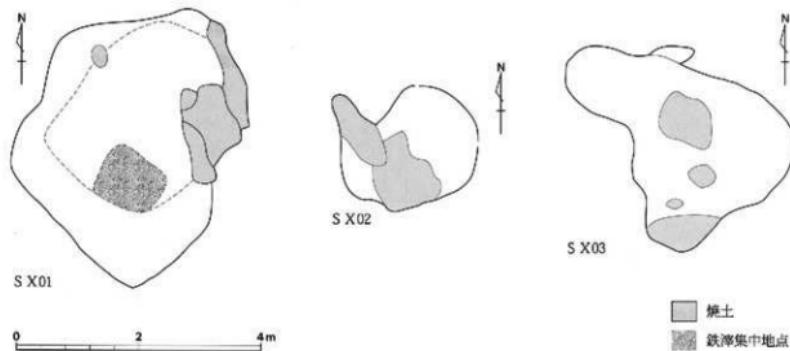
調査地区的（5・6、5・6）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は南北4.1m、東西3.2mを計る。今回は柱穴等の遺構に伴う掘込みが確認できず、鉄滓や遺物の集中箇所を遺構の範囲とした。遺構の北東側では幅30cmの溝状の粘土帯が2箇所あり、これらに挟まれた幅50cm前後の焼土を検出した。その北東側から南側にかけて鉄滓が密に出土している。遺構内や周辺から炭や轆の羽口が出土している。この焼土や粘土帯を中心とする範囲を炉址と考えている。また住居址に伴うものか判断できないため今回は炉址とした。断割り調査は行っておらず下部構造は不明である。出土遺物は、繩文土器、土師器、須恵器、轆の羽口、鉄滓である。図示した遺物は、図面07-3406・3411、図面08-3501・3507・3516・3517である。

炉址 SX02

調査地区的（5、4）区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は南北2.26m、東西1.68mを計る。遺構北西側には粘土帯があり、この南東側に焼土が接する。これらと遺物が集中する箇所を遺構の範囲とした。北東側を暗渠に切られる。遺構確認面の状態からSX01に類する遺構と思われる。出土遺物は土師器である。図示した遺物は、図面07-3405である。

炉址 SX03

調査地区的（4・5、3・4）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は南北4.0m、東西2.94mを計る。遺構中央部と南端部に焼土を検出した。遺構確認面の状態や出土遺物からSX01に類する遺構と思われる。出土遺物は土師器、須恵器である。



第16図 滝遺跡油石地区炉址実測図 (1/80)

2. 土坑

土坑SK01

調査地区的（6、5・6）区で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.64m、短軸1.2mを計る。中央部には焼土があり帯状に東西に延びる。出土遺物は土師器、須恵器である。図示した遺物は、図面07-3402・3409・3413である。

土坑SK02

調査地区の（6・7、4）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は長軸1.12m以上、短軸5.4m以上を計る。南東側は調査地区外に広がる。中央部をSX04に切られる。遺構覆土は焼土からなり炭化物が混在している。出土遺物は土師器である。

土坑SK03

調査地区的（5、3）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は長軸1.9m、短軸0.8mを計る。周辺は地山土が露出している。遺構覆土は黒褐色砂質土からなる。出土遺物は縄文土器である。

3. 溝

溝SD01

調査地区的北西端部で検出された。西から北東方向に走る溝である。規模は幅60～90cm、深さ19cmを計る。調査地区北端部でも延長部分を確認し、全体で長さ11m以上となる。出土遺物は珠洲である。

4. 凹状遺構

凹状遺構SX04

調査地区的東側で検出された。幅30～50cmの溝が3条走る。それぞれ約50cm間隔で平行に北北西から南南東方向に走っている。南東側でSK02を切る。他のトレンチでは延長部分が確認できず、小規模な溝が並んでいると思われる。今回はこれらの溝を凹状遺構として報告した。

5. 凹地

凹地SX05

調査地区の南東側で検出された凹地である。上層の確認のため黒褐色疊層に試掘坑を設定したところ、土師器、須恵器が出土した。土層断面を観察し、南東方向へ向かって落込む遺構を確認した。調査地区外へ広がるため全体の規模は不明である。今回は凹地として報告した。出土遺物は縄文土器、土師器、須恵器である。図示した遺物は、図面08-3506である。

III 遺 物

1. 縄文時代

中期前葉後半の土器（図面01-3101～3126、図面02-3127～3142、図面03-3143～3147）

3101～3142は深鉢である。3101～3103は蓮華状紋をもつ口縁部片である。3105～3108は口縁部にC字状を呈する爪形紋をもつ。3104と3113も爪形紋が付くが、3104の鈍角に対して、3113は鋭角である。3109～3112は半隆起線紋を多条に引く口縁部片である。3143・3144は粗製深鉢である。3145～3147は浅鉢になる可能性があるもの。3145は内面の作りが丁寧であり、口縁部内面に沈線が巡り、浅鉢の可能性が強い。

晩期初頭の土器（図面04-3148～3159）

3148～3155は鉢、3156・3157は粗製深鉢である。3158・3159は底部片で、当時期のものと推定した。

土偶（図面04-3201）

有脚土偶の脚部である。形状は円柱状を呈し、上部には半截竹管による半隆起線紋が巡る。胴部側の接合面には凸状の突起があり、臀部と脚部との接合にはソケット接合法を使用する。

石器（図面05-3301～3306、図面06-3307～3311）

3301～3303は磨製石斧である。3301は刃部側から2次的な剥離を受ける。緑色凝灰岩である。3302は頭部の一部が欠損する。蛇紋岩である。3303は結晶片岩である。3304～3306は打製石斧である。3304は短冊形で砂岩である。3305は楔形で花崗岩である。3306は大型の打製石斧の未製品とした。一部に剥離がみられる。安山岩である。3307は磨石である。椭円形の礫で表面に研磨面がつく。流紋岩である。3308は凹石である。椭円形の礫で表面に凹みがつく。砂岩である。3309は台石である。偏平な石の片面に擦痕がつく。花崗岩である。3310は石鍤である。石の端部に紐懸かりの打欠きがある。安山岩である。3311は頁岩質の剥片である。3312～3318は使用痕のある礫である。石質は、3312-玢岩、3313-砂岩、3314-花崗片磨岩、3315-花崗岩、3316・3317-花崗岩、3318-安山岩である。

2. 奈良平安時代

土師器（図面07-3401～3413）

3401～3403は楕の口縁部、底部である。3401は内面を黒色処理する。3404・3405は、鉢の口縁部、底部である。3404は外面を赤彩する。3406～3413は壺の口縁・胴上部である。口縁端部をつまみ上げ、面を作るものである。胴上部外面はカキ目である。3407は磨滅していて不明である。

須恵器（図面08-3501～3518）

3501～3504は高台が付かない杯で、底部はヘラ切りである。3505～3511は高台が付く杯である。3512～3514は杯蓋の口縁部である。口縁端部を下方へ短く屈曲させている。3512は、天井部内面がナデ、外面がヘラ削りである。3515は鉢の口縁部である。3516～3518は壺の口縁部・胴上部である。

製鉄関連遺物

縄の羽口16点と鉄滓138点が出土している。鉄滓の一部は図版18の写真で示した。

IV 結語

施遺跡は、平成10年度に実施された中田地区の埋蔵文化財分布調査によって存在を確認した。今回は試掘調査ながら当遺跡の初めての調査である。今回の調査では、縄文時代中期・晚期、奈良平安時代、中近世の遺構・遺物を確認し、遺跡の主要となる年代と集落遺跡としての内容の一端が把握できた。

縄文時代の遺構・遺物

今回の調査では黒褐色砂疊層（遺物包含層）の掘下げを一部のみに止めたため、この時期の遺構は土坑1基（SK03）のみの検出となった。遺物は調査地区全体の包含層で出土し、土器片は多数出土したが全体復元はできなかった。主体となる土器は、文様に半截竹管による半降起線紋を多様に用いており、縄文時代中期前葉後半の新崎式に位置付けできる。土偶は脚部のみの出土ではあるが、形状および胴部との結合にソケット結合法を用いることから、八尾町長山遺跡で出土した土偶と共通し、また伴出している土器から土偶も新崎式期に位置付けできる。縄文時代中期前葉後半以外のものとして、晚期初頭の御経塚式・勝木原式と位置付けできる土器も見られるが少量である。縄文時代の遺物包含層は調査地区一帯に広く堆積していると推定でき、調査地区周辺にはこの時期の遺構が存在する可能性が高い。

奈良平安時代の遺構・遺物

縄文時代の包含層上面に織の羽口・鉄滓を伴う焼土や粘土帯からなる遺構を3基（SX01～03）検出した。これらの遺構は鉄の精錬・鍛冶作業に伴う炉址と推定する。上面検出のみであるため、構造の解明はできなかった。土師器・須恵器を伴うことからこの時期の遺構とした。遺物の主要な時期は奈良時代後半から平安時代初頭のものである。当遺跡周辺は東大寺領莊園の1つである石栗莊に比定されており、同時代の遺跡として高岡市常国遺跡が所在している。付近の砺波市増山周辺には須恵器・製鉄・炭焼き窯などからなる生産関連の遺跡群が所在している。これらの遺跡も視野に含めて当遺跡の性格を考えなければならないであろう。

中近世の遺構・遺物

溝1条（SD01）と畝状遺構（SX04）がこの時期と推定する。SD01からは珠洲が出土しており、また奈良平安時代の遺構を切っていることから、中近世の遺構とした。

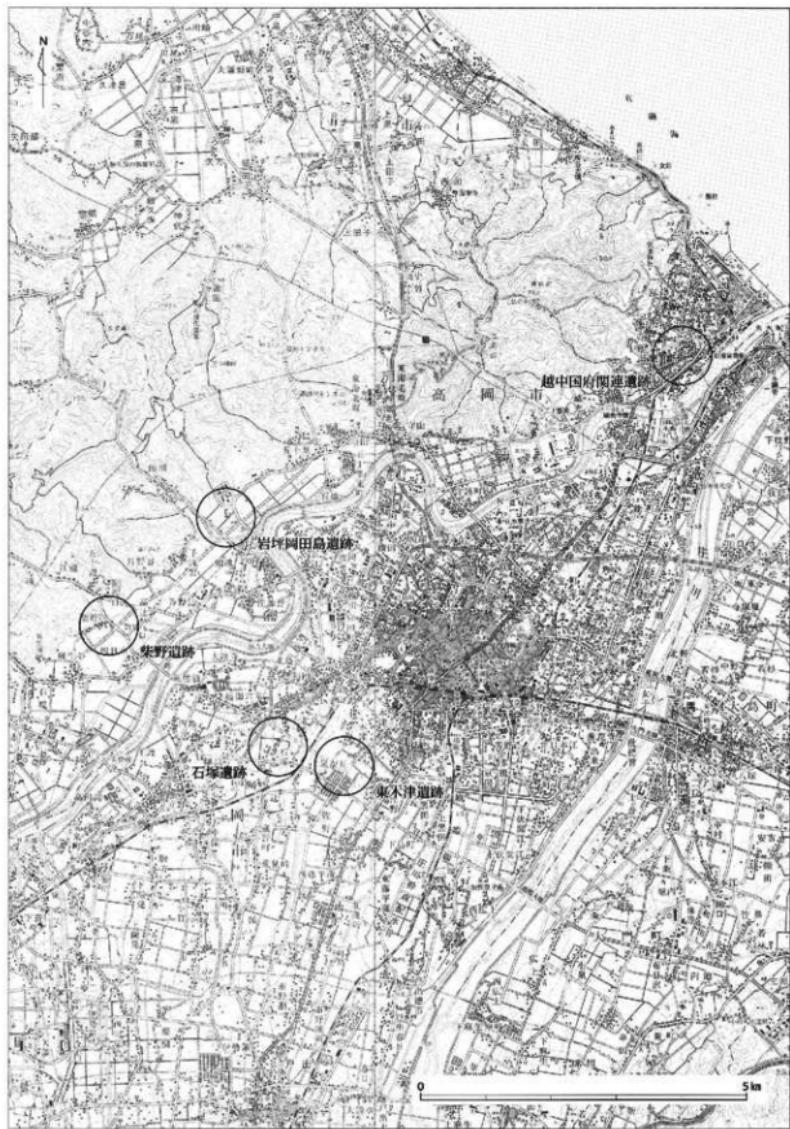
参考文献

- 有山經世他 2000 「富山県婦中町外輪野Ⅰ遺跡・鏡坂Ⅰ遺跡発掘調査報告」 婦中町教育委員会
狩野 陸他 1991 「北陸自動車道遺跡調査報告—朝日町編6 一焼A遺跡土器編」 富山県教育委員会
小島俊彰他 1967 「富山県高岡市勝木原遺跡Ⅰ」 富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブ
小島 俊彰 1974 「北陸の縄文時代中期の編年—戰後の研究史と現状—」「大境」第5号 富山考古学会
神保孝造他 1977 「富山県砺波市敷照寺遺跡緊急発掘調査概要」 富山県教育委員会
神保孝造他 1985 「富山県八尾町長山遺跡発掘調査報告」 八尾町教育委員会
高堀勝彦他 1986 「石川県能都町真駒遺跡」 能都町教育委員会・真駒遺跡調査団

4. その他の遺跡

その他の遺跡、目次

I	石塚遺跡場建設工業地区	33
II	越中国府閻連遺跡大村地区	34
III	東木津遺跡泉脇神経外科地区	35
IV	岩坪岡田島遺跡池田地区	36
V	柴野遺跡山田地区	37



第17図 その他の調査地区間連遺跡位置図 (1/7万5千)

I 石塚遺跡堀建設工業地区

遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西郊、JR高岡駅の西南西約3.0kmに位置する。遺跡北側は都市計画道路下伏間江福田線が通る。東側の和田川と西側の祖父川に挟まれた標高11~12mの微高地上に立地する。

基本層序

厚さ約20cmの表土の下は、黄褐色粘質土乃至砂質土の基盤層が現れる。かつて調査地区南側は開析谷があり次第に落込む地形であったと推定する。

調査概要

所在地：高岡市石塚150-3、 対象面積：499m²、 発掘面積：50m²

調査期間：平成13年4月16日～同年4月27日、 調査原因：資材置場造成

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は須恵器が出土している。



第18図 石塚遺跡堀建設工業地区位置図（1/5,000）

II 越中国府関連遺跡大村地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北側、小矢部川の河口左岸、伏木台地一帯に位置する。標高11~12mの微高地上に立地する。越中国国府跡推定地、越中国分寺跡を含む遺跡として知られる。

基本層序

厚さ約40cmの褐色砂質土（整地層）の下層は、約1mの厚さで近代の廃棄物が堆積している。その下に赤褐色粘質土の基盤層が現れる。

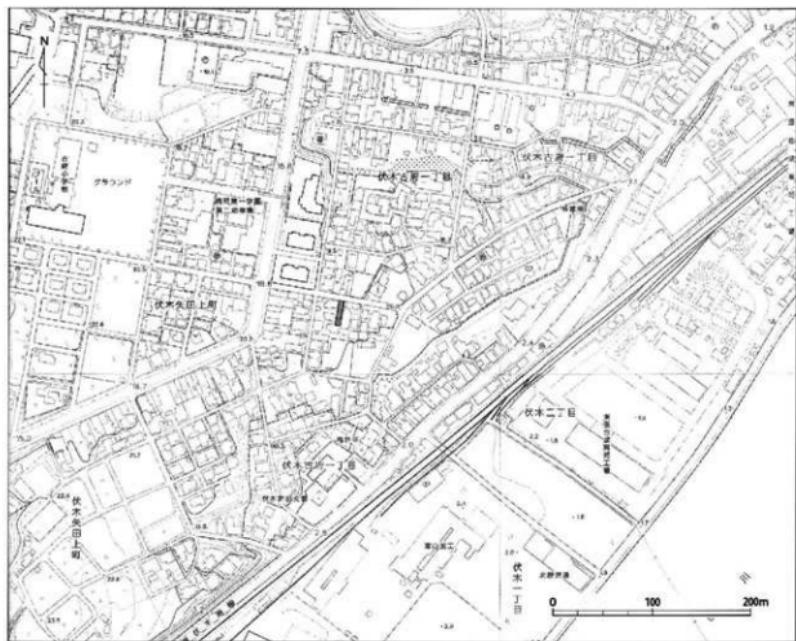
調査概要

所在地：高岡市矢田上町181、 対象面積：138m²、 発掘面積：20m²

調査期間：平成13年10月2日、 調査原因：駐車場建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土していない。



第19図 越中国府関連遺跡大村地区位置図 (1/5,000)

III 東木津遺跡泉脳神經外科地区

遺跡概観

当「東木津遺跡」は、高岡市街地の南西郊、JR高岡駅の西南西約3.0kmに位置する。泉ヶ丘団地の北側一帯に当たる。東側の千保川と西側の和田川に挟まれた標高11~12mの微高地上に立地する。

基本層序

厚さ約20cmの表土の下は、厚さ30cm前後の灰褐色粘質土層がある。この下層に暗灰色粘質土層があり溝乃至落ち込みの肩部と思われる。この下に黄褐色砂質土の基盤層が現れる。

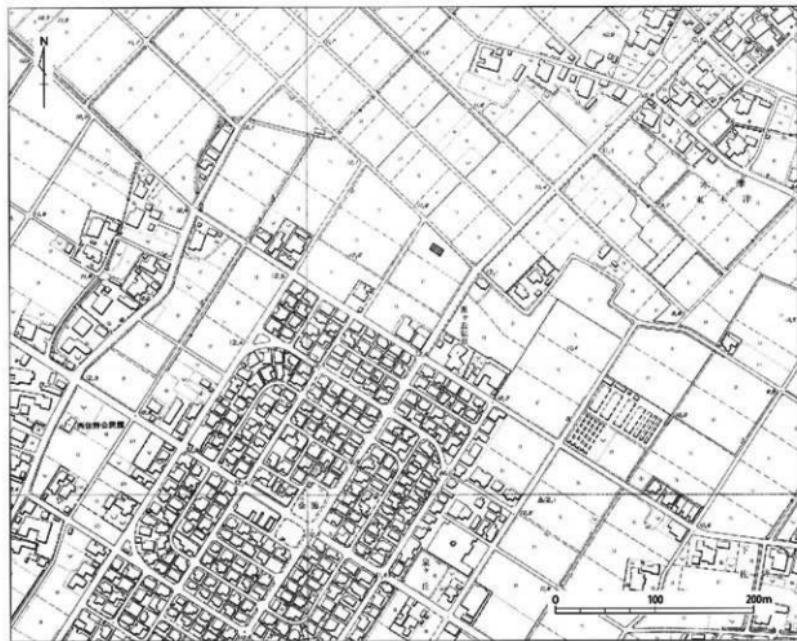
調査概要

所在地：高岡市佐野870-1、 対象面積：4 m²、 発掘面積：4 m²

調査期間：平成13年10月1日～同年10月5日、 調査原因：屋外広告物の設置

調査結果

遺構は溝1条を検出した。遺物は須恵器が出土している。



第20図 東木津遺跡泉脳神經外科地区位置図 (1/5,000)

IV 岩坪岡田島遺跡池田地区

遺跡概観

「岩坪岡田島遺跡」は、市西部に位置している。当包蔵地は、平成8年度に富山県埋蔵文化財センターが実施した分布調査により、NEJ-11（散布地）として確認されたものである。これは、(財)富山県埋蔵文化財調査事務所が実施した能越自動車道建設に先立つ試掘調査結果を受けて名称変更されたものである。

平成12年度三芝硝材地区においても遺構は検出されていない。一方で、当地区的南方では埋蔵文化財調査事務所等の調査により中世などの遺構が確認されている。

基本層序

耕作土、灰白色粘質土

調査概要

所在地：高岡市国吉1904、対象面積：603m²、調査面積：16m²

調査期間：平成13年11月21日、調査原因：個人住宅の建設

原因者：池田 実

調査結果

当該地では、遺構および遺物は検出されなかった。



第21図 岩坪岡田島遺跡池田地区遺跡周辺図 (1/5,000)

V 柴野遺跡山田地区

遺跡概要

当「柴野遺跡」は、高岡市街地の西側、JR高岡駅の西約6.6kmに位置する。遺跡東側は小矢部川が流れ、北西側の西山丘陵上には古墳群や中世の山城があり、麓一帯にかけて遺跡群が立地する。

基本層序

厚さ約15cmの表土の下は、厚さ30~40cmで黄褐色粘質土と暗灰色粘質土の区画整理時の整地層が現れる。この下層には暗灰色粘質土層や腐食物を多量に含んだ黒褐色土があり、低湿地の様相を示す。

調査概要

所在地：高岡市柴野50-2、 対象面積：499m²、 発掘面積：50m²

調査期間：平成13年12月10日、 調査原因：資材置場造成

調査結果

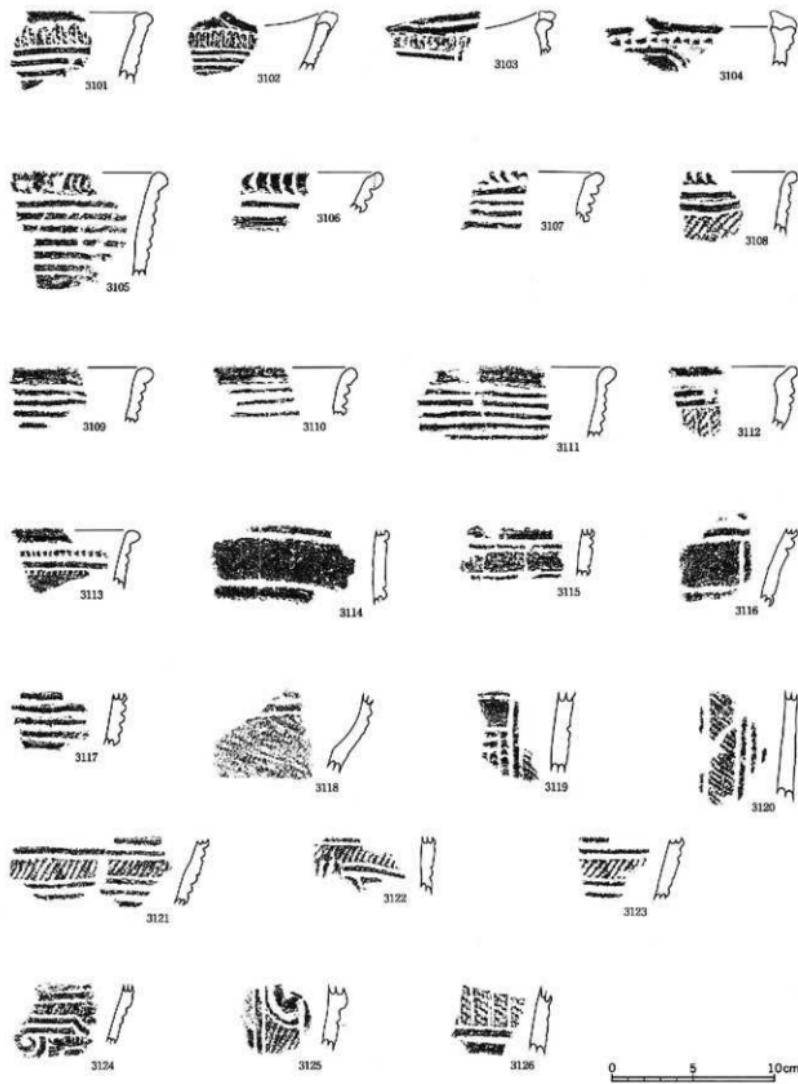
遺構は検出されなかった。遺物は土師器、須恵器が出土している。



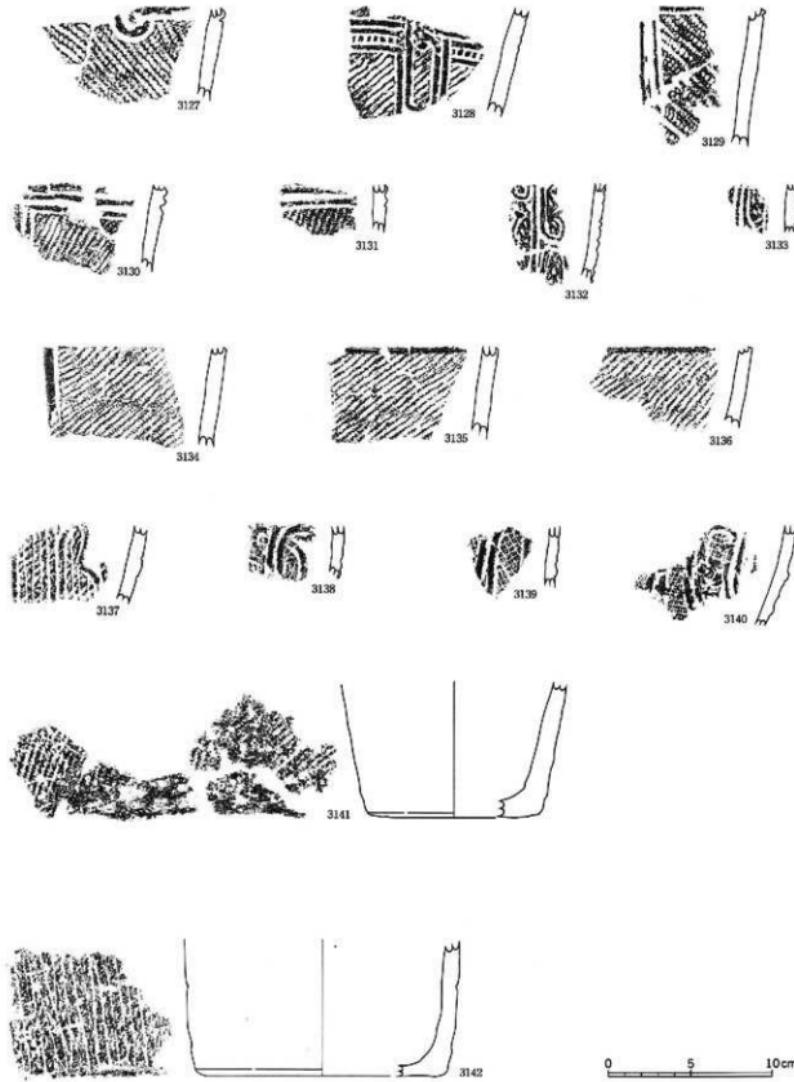
第22図 柴野遺跡山田地区位置図（1/5,000）

報告書抄録

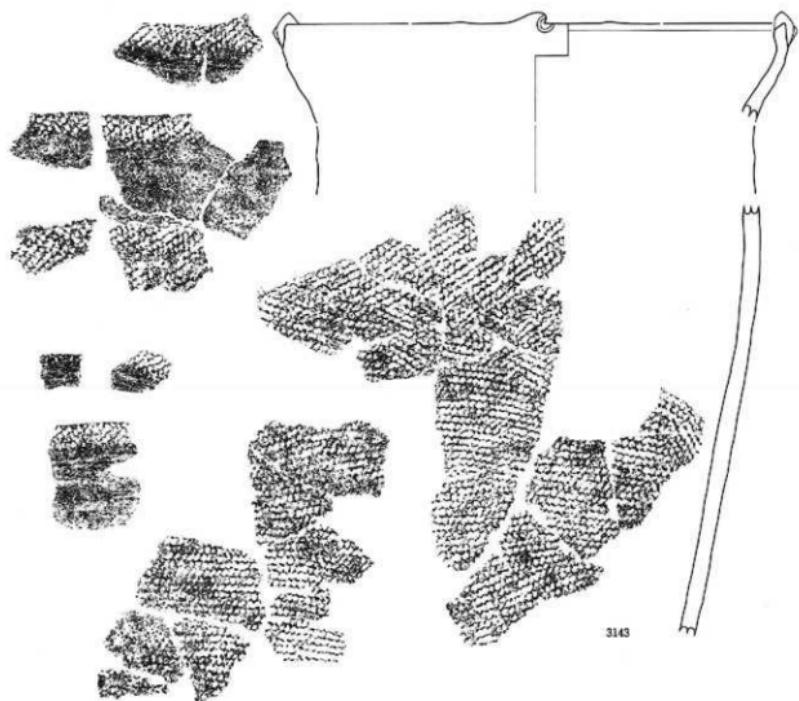
ふりがな	しないいせきちょうさがいほうじゅうに							
書名	市内遺跡調査概報Ⅹ							
著者名	平成13年度、遺跡の調査他							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第49冊							
編著者名	荒井隆、太田浩司							
編集機関	高岡市教育委員会							
所在地	〒933-0057 富山県高岡市広小路7番50号							
発行年月日	西暦 2002年3月29日							
所 収 遺 跡	所 在 地	コ 一 ド		北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
で よでんみかねいせき 出来田南遺跡	とやけんみかねいせき 富山県高岡市 出來田	016202	202139	35° 43' 34"	137° 02' 00"	010410 /	53.5 m ²	店舗建設
いづほたの と いせき 石塚江之戸遺跡	とやけんみかねいせき 富山県高岡市 上北島	016202	202159	36° 43' 59"	136° 59' 01"	010416 /	60 m ²	店舗建設
いしづかえの と いせき 石塚江之戸遺跡	とやけんみかねいせき 富山県高岡市 上北島	016202	202159	36° 43' 56"	136° 59' 03"	011203 /	373 m ²	駐車場造成
たひせき 油石地区	とやけんみかねいせき 富山県高岡市 たひ	016202	202237	36° 40' 47"	137° 01' 53"	011015 /	371 m ²	住宅建設
その他の地区	とやけんみかねいせき 富山県高岡市内	016202						住宅建設等
所 収 遺 跡 名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
出来田南遺跡 黒川仮櫛店拂壁工事地区	集落跡	奈良平安時代	柱穴、溝	土師器、須恵器		墨書き器「上川達」の出土。		
石塚江之戸遺跡 セイコーエンジニアリング地区	集落跡	中世	溝1条	土師器、珠洲				
石塚江之戸遺跡 石浦地区	集落跡	中世	土坑3基	土師器、珠洲				
海遺跡 油石地区	集落跡	備文時代 奈良平安時代	炉址3基 土坑3基 溝1条	縄文土器、土師器 須恵器、土偶 磨製石斧		縄文土器は、中期前葉後半が主体。		
その他の地区						※試掘調査地区		



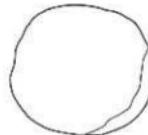
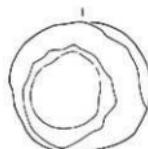
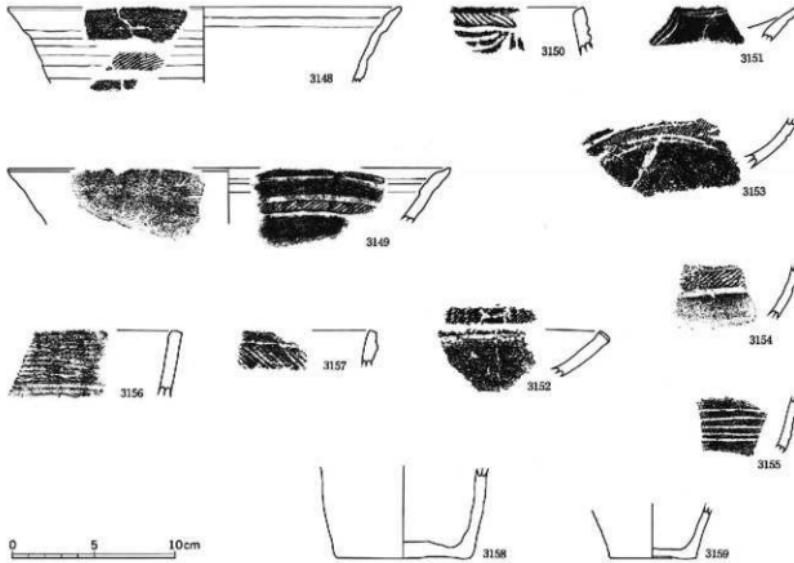
図面〇二　遺物実測図
縹遺跡



図面〇三　遺物実測図　溝道跡



図面〇四
遺物実測図
滌遺跡



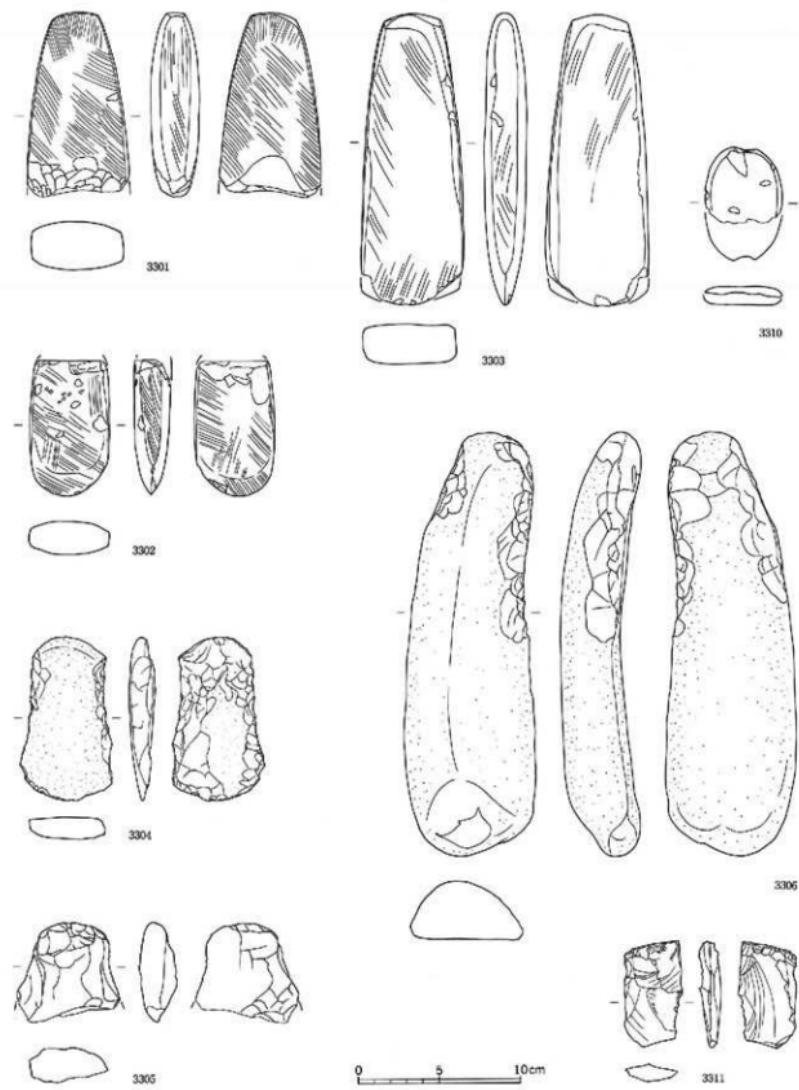
3201



縄文土器・晚期初頭（上段）
土偶（下段）

縮尺1／3
縮尺1／2

図面〇五 遺物実測図
溝遺跡

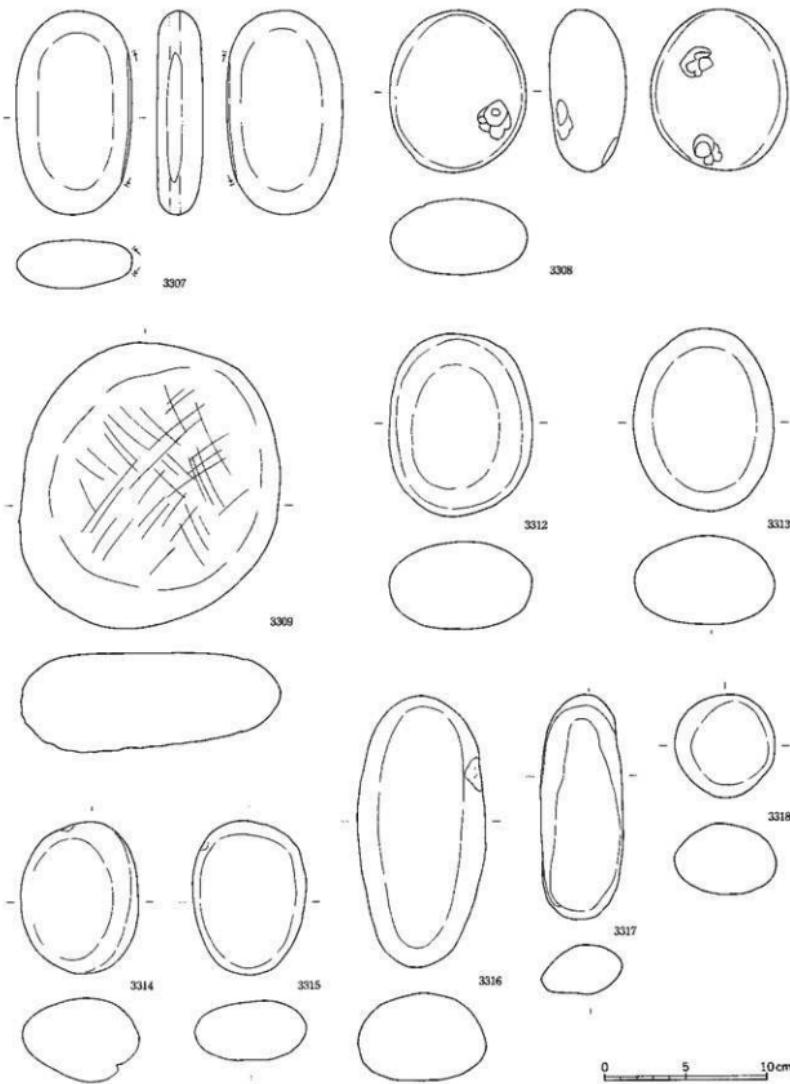


縄文時代・石器

磨製石斧；3301～3303、打製石斧；3304～3306、石錐；3310、剥片；3311

縮尺1/3

図面〇六 遺物実測図 滾遺跡

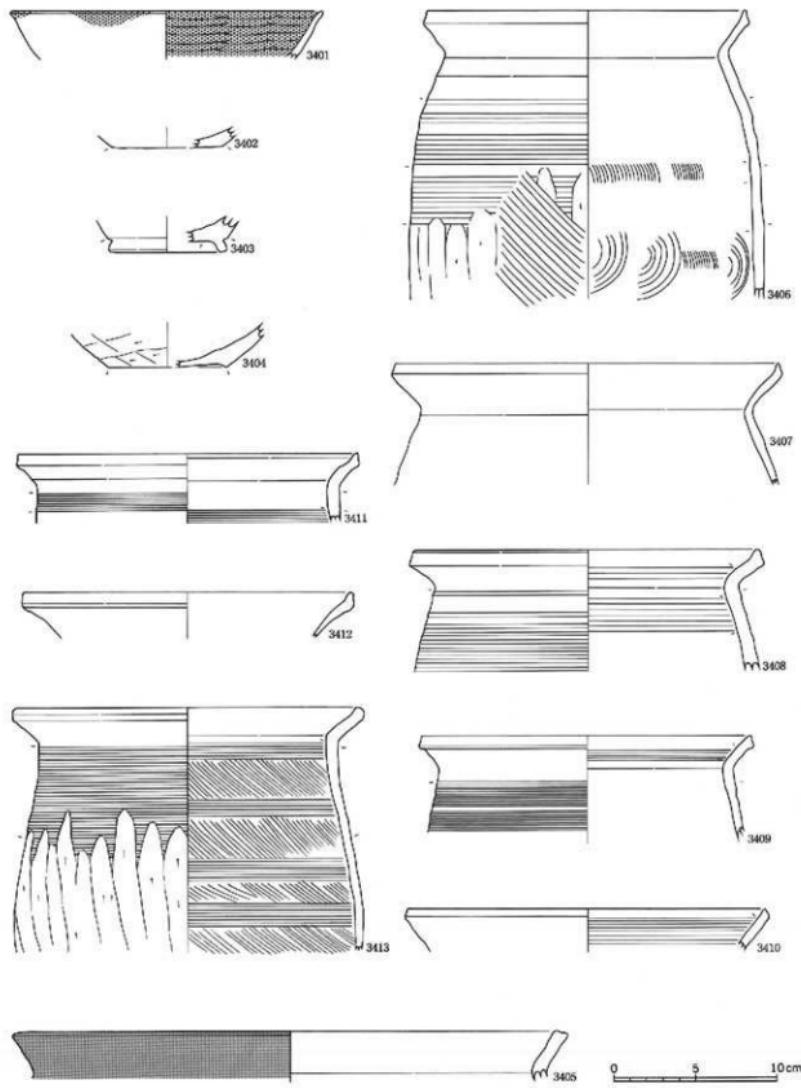


縄文時代・石器

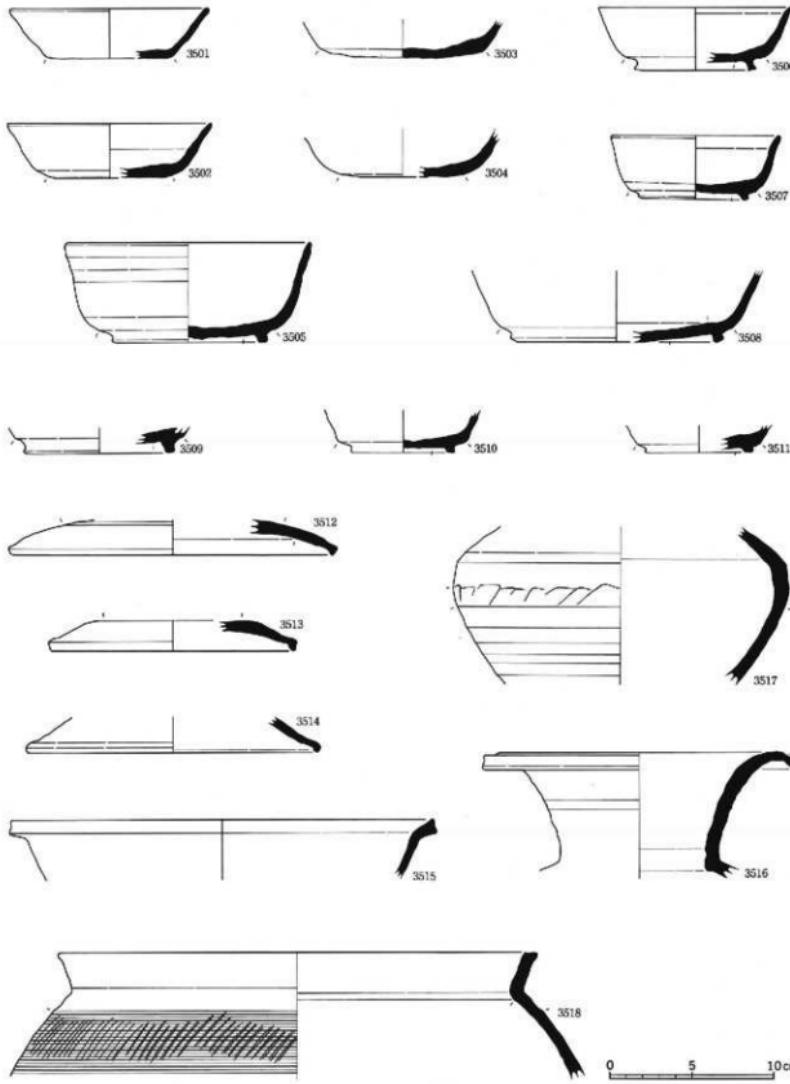
磨石；3307、凹石；3308、台石；3309、使用痕のある砾；3312~3318

縮尺1/3

図面〇七 遺物実測図 滝遺跡



図面〇八
遺物実測図
海遺跡





1. 黒川仏壇店擁壁工事地区
重機掘削風景
(西より)



2. 黒川仏壇店擁壁工事地区
調査坑全景（南西より、前
方にみえる集合住宅が平成
11年大和ハウス地区）



3. 黒川仏壇店擁壁工事地区
墨書き土器出土状況
(東より)



1. セイコーユニオン地区
全景（南西）



2. セイコーユニオン地区
全景（北西）



3. セイコーユニオン地区
調査風景（南南西）



1. 石浦地区遠景（南）



2. 石浦地区遠景（南南東）



1. 石浦地区全景（南南西）



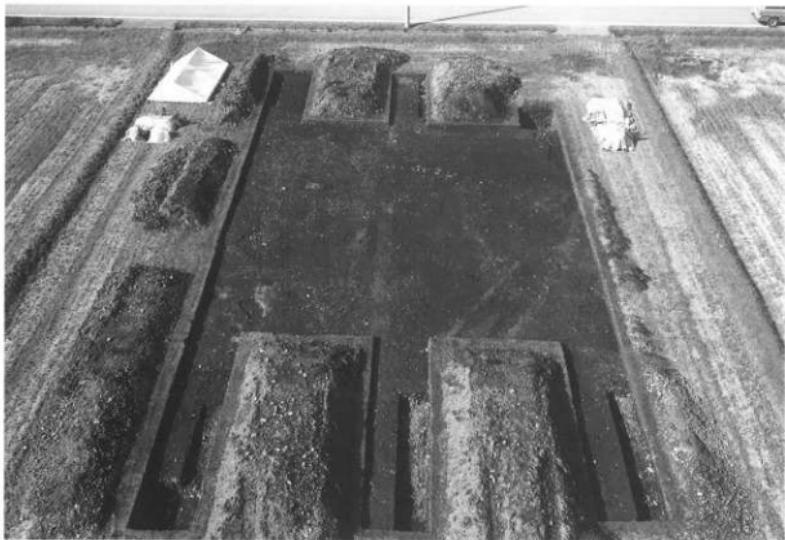
2. 石浦地区全景（西）



1. 遠景(南)



2. 遠景(南西)



1. 全景(南東)



2. 全景(北東)



1. 全景（北西）



2. 全景（南）

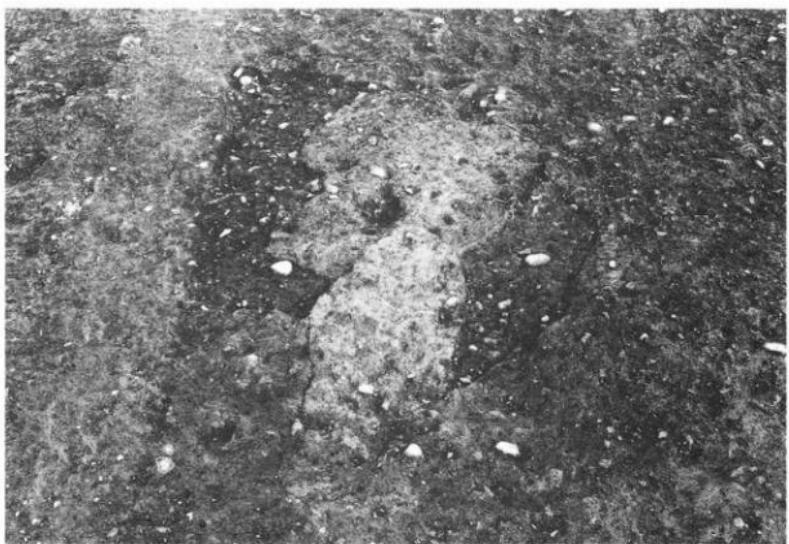
圖版〇八 遺構石質 漢畫跡



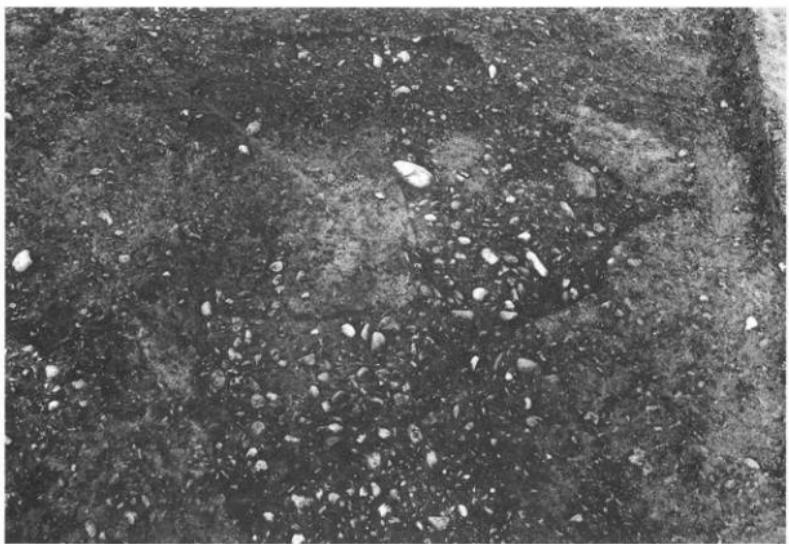
1. 爐址 SX01 (南西)



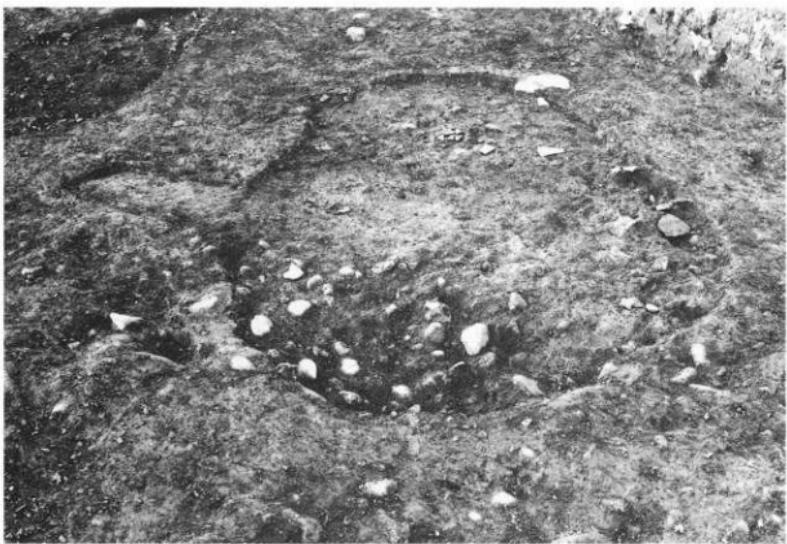
2. 爐址 SX01 (北西)



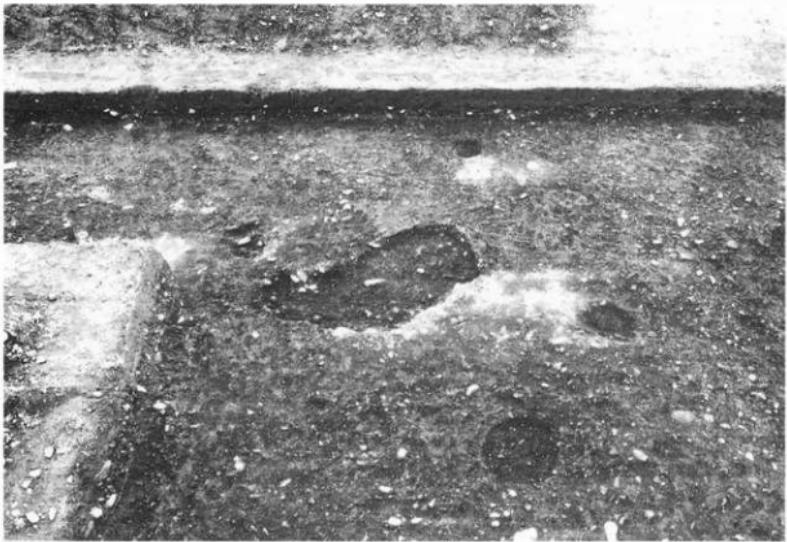
1. 炉址 SX02 (南西)



2. 炉址 SX03 (北西)



1. 土坑SK01(南)



2. 土坑SK03(北東)



1. 遺物出土状態、
土偶（南西）



2. 遺物出土状態、
磨製石斧（北西）



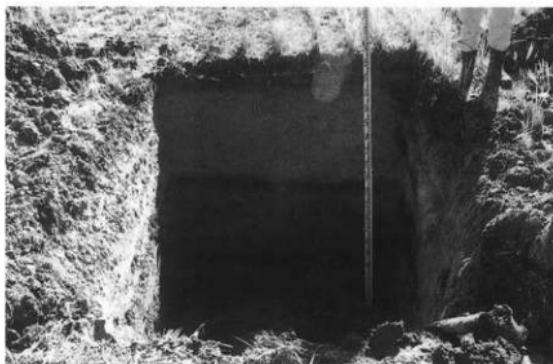
3. 調査風景（東）



1. 池田地区
調査地区全景
(南東より)

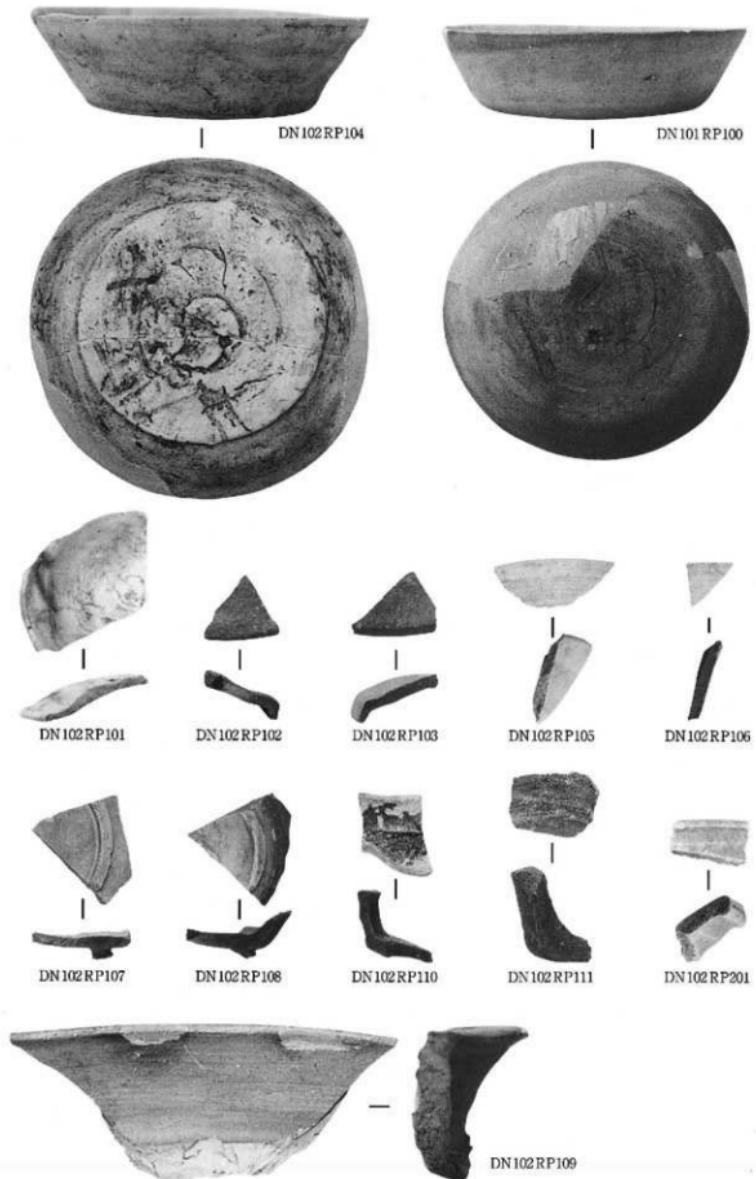


2. 池田地区
重機掘削風景
(東より)

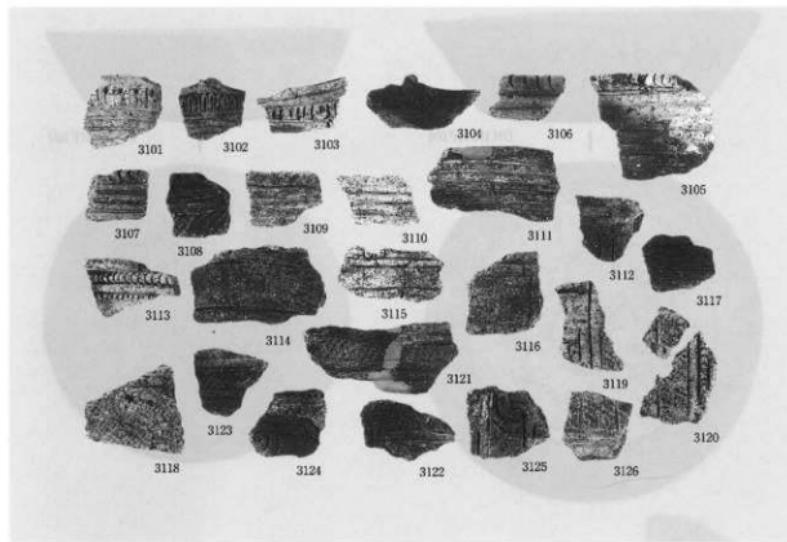


3. 池田地区
試掘坑土層断面近景
(北より)

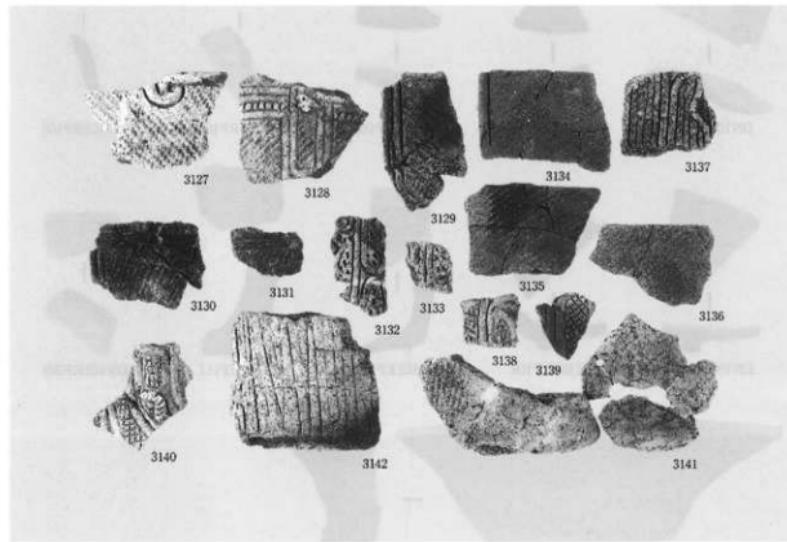
図版一三 遺物写真 出来田南遺跡 黒川仏壇店擁壁工事地区



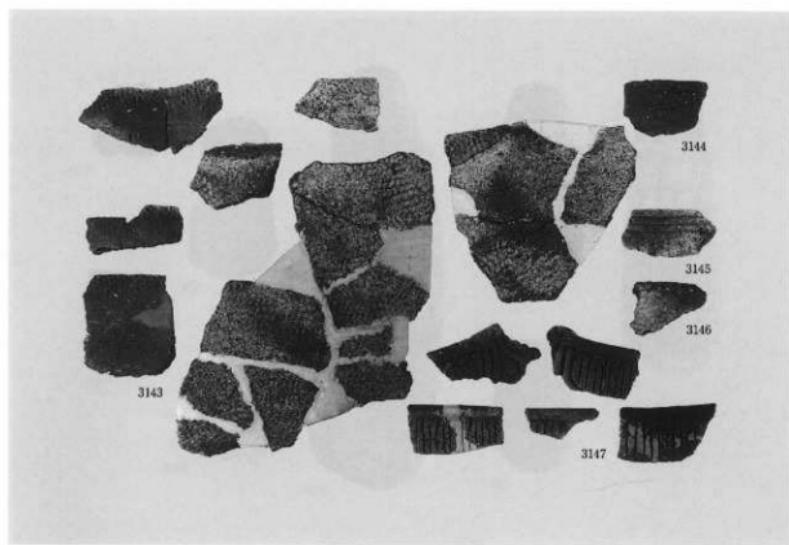
奈良平安時代、土師器・須恵器



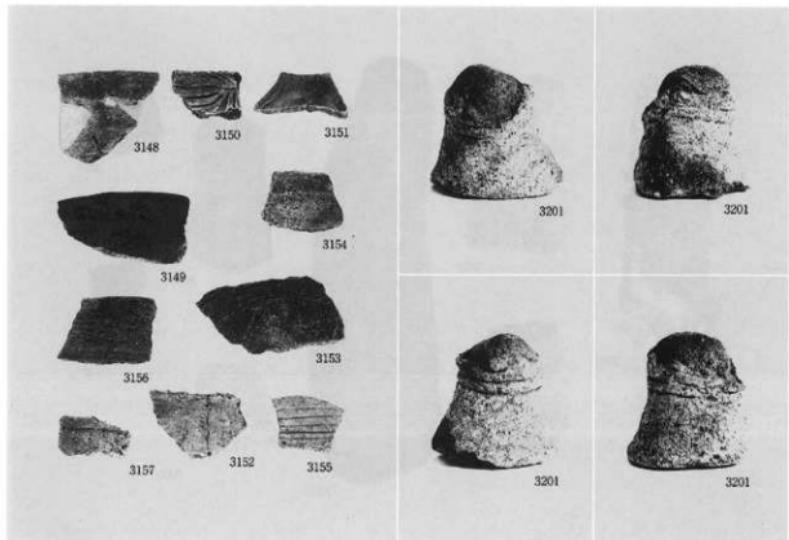
1. 繩文土器・中期前葉後半



2. 繩文土器・中期前葉後半

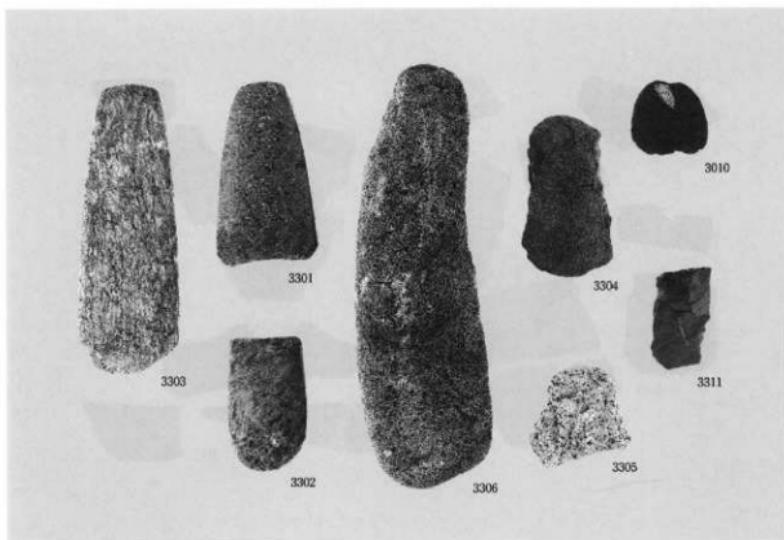


1. 繩文土器・中期前葉後半

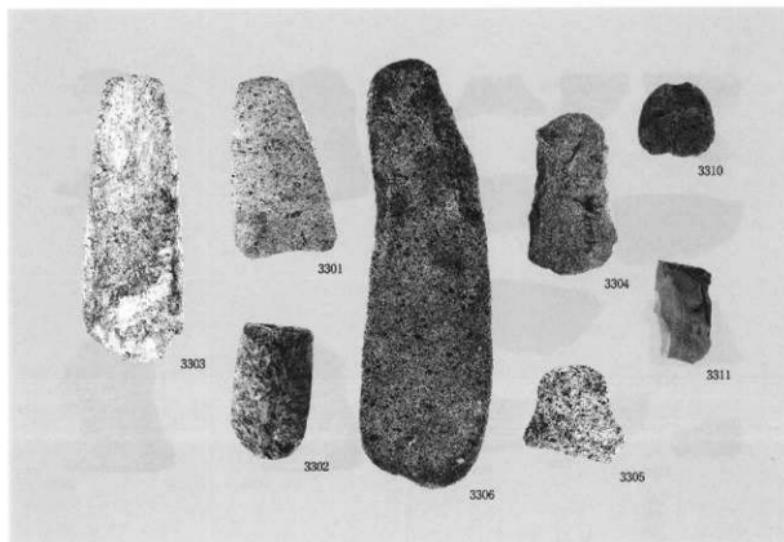


2. 繩文土器・晚期初頭

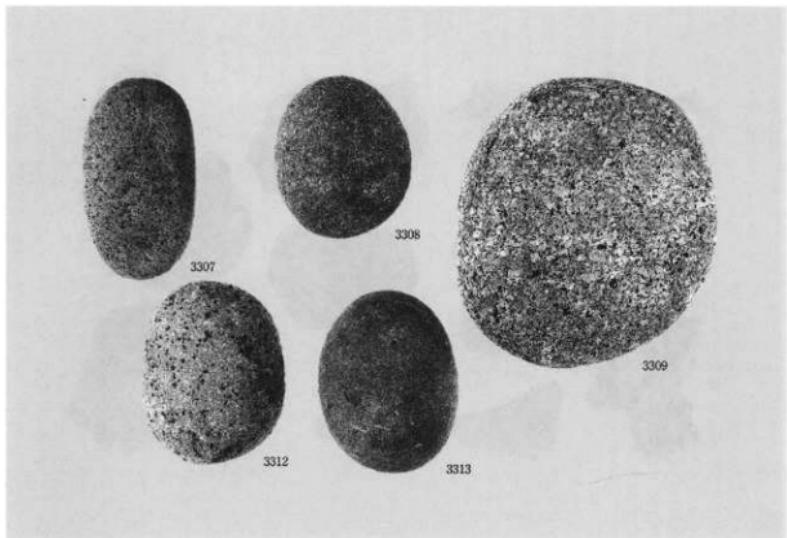
3. 土偶



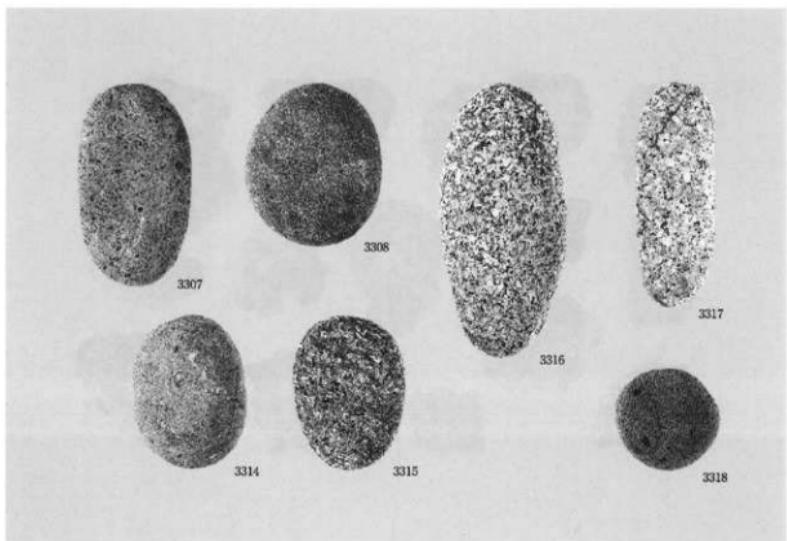
1. 繩文時代・石器



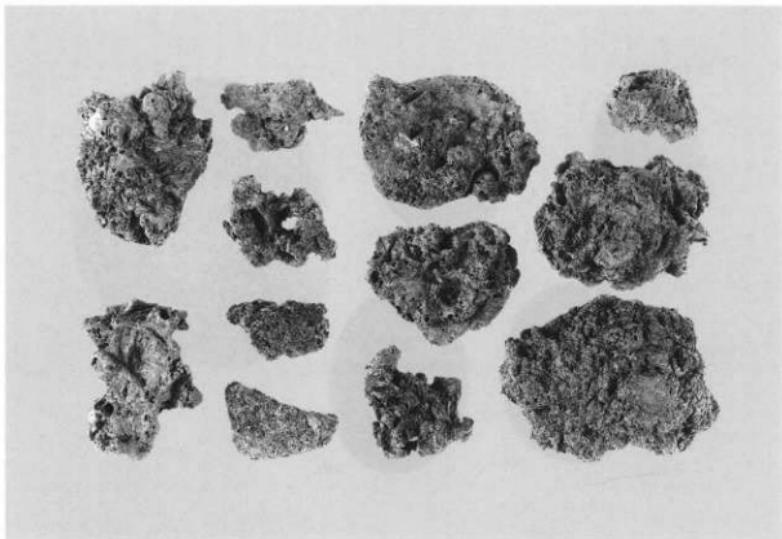
2. 繩文時代・石器



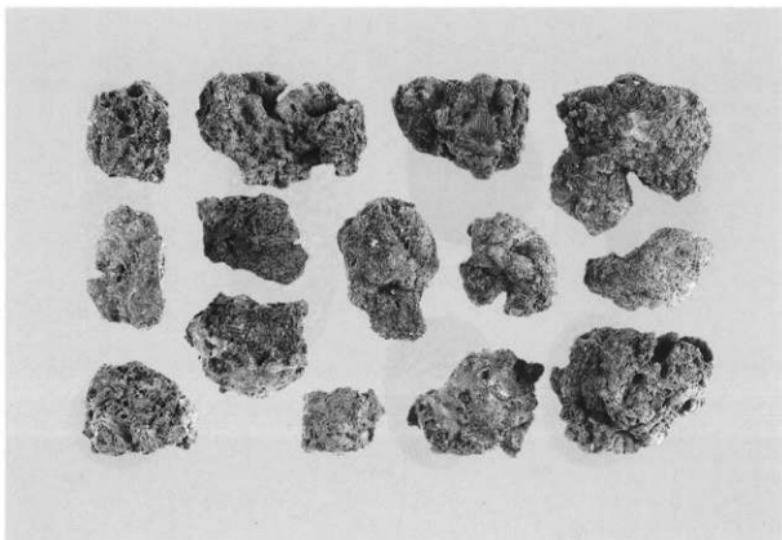
1. 繩文時代・石器



2. 繩文時代・石器



1. 奈良平安時代・鉄滓



2. 奈良平安時代・鉄滓

高岡市埋蔵文化財調査概報第49号

市内遺跡調査概報XII

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市山小路7番50号

2002年3月29日

印刷所 株式会社モヨシ美術印刷

富山県高岡市石瀬本町768
